

武
冊
之
八

廣福大王賜號

天保六年
乙未年
後編刊成

古くは

原名病家須知

岡氏
齋庭

岡氏
齋庭

名この如くあはれども様をまはさる
如く清世の如くしてなりくまらふ
如く病中たる人のつとむる程
さしおのころよりさうなむた
如くまはさるは伊はも有るを記
清世の如くしてなりくまらふ

其れありて人源の深きものなり
と云ふは其れ其れ其れ其れ其れ
た一人の心ありて其れ其れ其れ
らなりて其れ其れ其れ其れ其れ
こに其れ其れ其れ其れ其れ其れ
あふはちの法教のなるものなり

心ありて其れ其れ其れ其れ其れ
其れ其れ其れ其れ其れ其れ其れ
官の清き其れ其れ其れ其れ其れ
らなりて其れ其れ其れ其れ其れ
う賜ふ其れ其れ其れ其れ其れ其れ
たものなり其れ其れ其れ其れ其れ

天保甲午冬

病家須知
後篇

持善居刊行



心持一筆...
誠手阿...

大僧正真靜

幕府内史局直事源和賢書



五之卷
微毒の心得

肥前瘡のこ、ろえ
陰癰のこ、ろえ
傷寒時疫のこ、ろえ
痢病の心得
脚氣のこ、ろえとこく

六之卷
傷食霍亂の心得

一切の毒小中たること法の心得
卒小發る病のこ、ろえ
金創打撲のこ、ろえをこく
以上十个條

病家須知卷之五

微毒の心得を説

微毒我邦の昔々唐瘡といふ異域より傳來するに故なり。中華
 小ての廣東瘡と稱その廣東と云の南海の港津小く此際の長
 崎の如き地あり。其の廣東より毒を支那の國內に傳播たは
 其病の起る地名以て病名とせるあり。其の病を傳たる時代
 和漢とを小あまに遠らむ。僅三百年前後小過まし。意小此病
 の初ハ。全く蕃船より傳染たる小く。異國より航海たる船の博
 多府内あたりに小着たる頃小とある也。然を其毒の由來を遺
 失て。あらぬ病因を濫稱治法も各殊小して一定せぬもいと鹵

常小見とあるあり。其初小毒を傳るも唯一極微の種子小過
ごごごご。首卷小をいふおこく人身小根て。漸次小蕃行をの
ごご。必速小其苗を掘く。後患をららむをえとある。其初發
の下痒瘡便毒の類ら。たゞ臆裁小とけををき貼藥かごを。累
重小も知さご。逆小愈むとをのみ欲が故小。却て巨害ごあると
多。最初小施治ごを。男子をけぎご。陰頭瘡婦人も帶下耻瘡を
ごの輕證小く根治をえを。遅慢して毒氣漸小體中小流注
て種々の證小變ごるあり。他部小發たる瘡瘍ををべく排膿を
要ごごごも。あの下痒瘡小。世の拙工のごごく尋常の呼膿膏を
貼るも大小宜のらぬと小く。毒の内鬱ごをを顧ざる左計ある

ごうへ小。惣く膏油の類を貼ごれる。腐蝕大速をのあり。若腐蝕
の甚小至くも。陰器剥損ト。生涯不具の軀ごあり。終小を嗣を絶
小をいたす。或もあごよ。聖變トく勞瘵小あるもあり。故小下痒
にも呼膿の膏を貼。楮絮あご小て。裹纏及汚穢たる禪を着て鬱
蒸ごごごも。嚴禁い。の小を清淨小くごよ。故ごその腐蝕を止
る。前藥を專小く。旁内服劑小く消毒と喫緊あり。然のあごごも
前藥も安小俗家小説示がた。微意あごを。纖悉も述ごご。た
だ冷水を用く洗ごも。先の害をく。その効も偉あるものかれ。必
寒郷の醫藥小をあたりの小。あごを從事て可志のせん小も必
微下劑を用て。内鬱ぬやう小せ。祓ごらぬとご意會べ。又癩

毒^{ドク}小^コして。瘰^{リン}の膿^{ノウ}洩^{シユ}をのち。陰^{イン}莖^{セイ}内^{ナイ}小^コ下^ゲ疔^カ瘡^サの發^{ハチ}たるものかき
ら。下^ゲ疔^カ瘡^サと同^{ドウ}旨^シあり。陰^{イン}莖^{セイ}内^{ナイ}の陷^{クハ}蝕^{シク}を消^{シユ}小^コ。金^{キン}銀^{ギン}花^ハ。又^{マタ}苦^ク薏^イ
花^ハあとの類^{ルイ}を煎^{セン}ト。さく新^{シン}煙^{エン}吹^{フキ}の筒^{ツツ}長^{ナガ}ものを。頭^{アタマ}を去^{サリ}て。その吸^{スビ}
管^{クワン}を披^ヒ口^{クチ}小^コ挿^{サシ}て。自^ジ煎^{セン}汁^{ジュ}を噴^{フキ}入^{コミ}あせむるも。輕^カ證^{シユ}ハ治^イを盡^{ツク}。冷^{ヒヤ}
水^{ミヅ}を用^{モトメ}るをほさ可^{ヨシ}あせむるを盡^{ツク}て俗^{ソコ}家^カの爲^{タメ}小^コいふとある小^コ
て。尚^{ナホ}其^{ソノ}節^{セツ}目^メ代^{ダイ}舉^キハ。却^{サカ}害^{ガイ}を生^ナんことを恐^{オシ}く黙^{モク}止^ヂぬ。また癩^{サカトク}毒^{ドク}を
得^{トク}たる婦^フ人^{ジン}の。白^コ帶^レ下^ケを患^{ヤム}ものも。尋^イ常^{ツモ}の白^コ帶^レ下^ケとも大^オ小^ホ異^{ヒツ}
して。粘^チ稠^{チウ}つよく。禪^シ小^コ着^{シキ}と見る小^コ。其^{ソノ}色^{シロ}や、帶^キ黃^{ワウ}臭^ニ氣^キある
小^コ由^{ヨリ}考^{カウ}さば。こも下^ゲ疔^カ瘡^サの陰^マ戸^ヘの裏^{ウラ}面^{メン}小^コ發^{ハチ}たるものよ。其^{ソノ}汁^{ジュ}
出^デる膿^{ノウ}を交^{マシ}ると明^{アキラ}あり。よく其^{ソノ}原^{ゲン}初^{ショ}を探^{サグ}さば。其^{ソノ}夫^フ下^ゲ疔^カ瘡^サ着^マら

瘰^{リン}病^{ビヤウ}を患^{ヤム}或^シちとせらの證^{シユ}治^イく。彌^ヒ日^{ニチ}ぬま小^コ接^{ツグ}て。直^{チキ}下^ゲ小^コ毒^{ドク}を傳^{ツク}
輸^リたるあり。庸^{ヨウ}醫^イハあらく注^コ意^{ウイ}となく。たゞ尋^ヒ常^{ツモ}白^コ帶^レ下^ケの治^レ
法^{ホウ}試^シ施^{スル}故^コ小^コ。藥^ク病^{スリ}齟^ナ齟^ガの誤^アあり。若^{モシ}ちとせ小^コ奇^タ中^マ治^ダしたる
も。其^{ソノ}毒^{ドク}を内^{ウチ}小^コ蓄^{タム}後^{ノチ}の害^{ガイ}とあるとあれた。俗^{ソコ}家^カにもよく記^キ得^{トク}
るにとあり。あとの證^{シユ}愈^ユむ日^{ニチ}を經^スるうち小^コ。ややく陰^マ口^ヘ小^コ瘡^サの
發^{ハチ}く。子^コ宮^{ツボ}陰^{イン}戸^ヘとせ小^コ大^{ダイ}小^コ腫^{ハレ}て苦^ク惱^{ナウ}ものあり。或^シハ漸^シ小^コ痔^シ疾^ツと
あり。まごち乳^ニ瘍^{ヤウ}瘰^{リン}癧^{ゲイ}の類^{ルイ}小^コあり。若^{モシ}ち頭^{アタマ}髮^{マフ}中^{チウ}小^コ瘡^サを發^{ハチ}く。又^{マタ}
頭^{ツツ}痛^{ツク}耳^{ミミ}鳴^{ナリ}眼^メ翳^{カシ}或^シち月^{ツキ}信^{シン}不^フ順^{ジュン}崩^{クハ}漏^{ロウ}あご小^コあり。癩^{サカトク}疔^カ癩^カ疾^ツと變^{ヘン}
るもあり。病^{ヤマヒ}の轉^{テウ}化^カ預^ヨ縷^ロ舉^キかたし。又^{マタ}婦^フ人^{ジン}交^{カウ}接^{カフ}小^コよりて。男^{オト}子^コ
洩^キ精^{シユ}中^{チウ}よ。毒^{ドク}を轉^{テウ}輸^リたるもの。其^{ソノ}初^{ショ}陰^{イン}戸^ヘ小^コ事^ジあくく。たゞ子^コ

藏ツク中ノ小ハレ瘍モ腫シを生シト。偏ヒト小シ腹ハ結コ起カ。漸シ小シ腫ハ塊カを成ナテ。去ナ世ノ代ノ按オを痛イ劇ク腰ハ股ハ癢シ痛シ甚シモのあハ。外ホより診シ得エざバ。世ヨ整シハこれヲを瘀フ血ケあリとシく治セを施スども。逕オ庭ノあり。偶タ膿ヲを醗モテ陰コ戸ノ小ハ洩シ出ステ後ノ其ノ腫ハ散リ愈スタルモの。數ス人ヲを目シ撃スリ。此コ證ノをシての瘍ハ腫ムぬるト知レざバ。其ソ泄シ汁ヲもハ膿トもハ悟ラズシテ。真マの治テ法ヲを施ナさバ。後ノ害ヲを醸ダスル也ナ。其チ痛シ尋ソ常ノの瘀フ血ヲとシ大ハ小ハ差バ別ニあるトあハ其ソ病ヲ婦ニよく留コ心シテ。誤マらル、こノなハのモ。また婦ヲ人ノの瘰リン癧ビ病ヲ。俗ゾ小セうノちノいフ尋ヒ常ノのせウのちヲ。胸チ腹ハ諸ソ藏ヲと上ノのうニへ懸ツ引ク。尿セ口ノ癢シ急ニより發オ也ト急ニ小ハ。去ナ世ノ代ノ癩シ癧ノ子チ藏ノ病ヲの類ニ小ハ攝トさバ。緩ニ和ス劑ヲと與シテ過サ小ハ治スども。此コ證ハもマ癩ノ毒ヲ

よリ來キモのあり。故ユ小シ其ノ毒ヲを傳エタル所ヲ以テ自レ考テよシ。はハ小ハ惣ト楊ヤ梅ビ瘡ヲの週カ身ヲ小ハ發シ或ハ微シ毒ヲ小ハ由リ。頸ク項ノ諸ソ部ヲ小ハ腫ハ瘍ヲを發スるト。皆ミ元ノ氣ヲ自然ノの運ハ機ヲ小ハ從リテ毒ヲを排オ達スものあハ。よク膿ヲ潰スさせて。其ノ毒ヲを驅ダ盡スやうニにスるノよシ。腹フ癰ノ腎ノ瘍ノ類ハもマ然シ也ナ。中ノ小ハ懸ケ瘍ノといフも。會エ陰ノ俗ノ小ハあハ里ノことヲたりトいフことニろク小ハ發シるノあり。その處ハ。膀セ胱ノよリ小ハ便ヲを輸モ寫スとあハるノ經ニ由リ小ハ陷ク蝕シ甚クあハ。尿セ瘡ノ口ノより泄シテ。いハ小ハをシども愈ガ。こノれハこノまハ。あハ里ノ又ハ痔ヂ疾ヲよりやハ。て痔ヂ漏ヲ小ハなリたるヲ。肛カ門ノの旁ハ。裏ウ小ハ徹シるノ竅ヲ成テ。去ナ世ノ代ノ尿ヲ液ヲをその口ノより泄シテ。速ニ小ハ愈ガ。たクとシ色ヲより變ハトテ勞ラ瘵ノ小ハあハ。死シを招クことあり。故ユ小ハ此ノ二ニ症ヲ

ら。かゝるく遅回ツカクし時日ホドを消スシしたく。大小意用コホエあるまゝとあり。其
他ホカノ囊瘍ウツク附骨疽ツク癰疽セナカノ發背ハレモノ無名惡瘡ナモシレヌガキモノ與歷年頭痛眩暈オモヒカタク肩背強痛ツク眼
目内外翳耳鳴耳聾ヒソゴヒ若も臂痛足痺痛痺ヒチイタマヤレイタマツク鶴膝痺癩疾クダクシフク狂癩留飲鼓
脹癥癖疝瘕の諸證キダシヤクも此毒コノドクより變ヘンしたるをあり。臙瘡陰癬ガンガヤインキンの類
もまたおとよし來あり。或も勞瘵ラウライにアルヒあるもまゝあり。眞の勞瘵マコト
も必死不治フダシヤマヒあるも。おの毒ドクより來ものも治ナゲすることあり。疥
病フク小成ナリたるも又同マタオホシ。その他婦人の月信不順ホカノフジン胎子不育ツキヤクフツクニ乳癰コドモツクナカスル乳巖ニウイヨクニウガン
の類ルキもまゝ此毒コノドクの内鬱コモリタルより發オコルものありて變證預續ヘンシヨウマシメイヒツク舉トたり。
以上の疾ヤミその時トキの證候ヤツガイ小從シタツ治法區別リヤツゴダシヤバツあるまゝとあり。其
病ヤミの本源モト小注意コノツカさすべ。いゝ小治シヤチしるも効カクあるものあり。故ユエ小

多年難治タチニシナチの症ヤミあるもの。そのむらゝ此毒コノドクを傳輸ツタハリたるまゝとあら
む。其頃ソノコトよりの病苦ビヤクの變化ヘンクをよく自究尋ジシケンガヘ見るミる。多年の間タチニ
小も餘外サマヘの狀イマ小なり。自己ジビ小を覺サトざるまゝと多オホけさす。よく意ココロを
潜ツケ探得センサクスル小あらねば。其病因ソノビヤインを明トモたれたまゝとあり。さき小もい
ふごとく。此病コノヤミを血肉チニクと相親アヒレタスむ毒ドク小して體中カラダウチ小潜藏ヒヤクタクて相離オチモヤラは
數年スチニの後ノチ小再發サイハツするまゝとあり。的實タシカ小をさと知シれたく。疑惑マヨフ
小と多オホし。醫師イシヤもその時トキの患狀イヨウザイ小拘ワカリり。病因ビヤインを確シカと認トメさす。遂ツヒ
小も齟齬ソコゴたる治法シヤフ小生イチを損ツチふとあり。若然モレサレとれた小。此病コノヤミ毒ドクゆゑ
あるまゝとを窄ツシカ小知シんとあらば。何證ナニシヨク小をあり。其苦惱ツクナクヒ昼日ヒルも輕カホ
易夜陰クヨルハ劇甚ハゲシキと。此病コノヤミの分マシマをさとすべ。そを徵候メアテとす。十トが七

八ら差失あり。さきども此毒を轉化て年所を経るもの、う
ち小るま、此徴候を以て辨知したるもあはば、あきもま、一
槩小ち斷つたれたると記憶せし。又此病も尋常の藥劑小く治
まをたれ小ちあらはれどと。世小所謂かげあみといふ類を服く。口
齟糜爛て。大小涎を流し。飲食進ぶたきにいさるる。可あらぬこ
とあり。世暨ち此涎より毒を排ものこ計較たきども。決して涎
小從て毒の去あといひなく。唯涎囊小假て藥毒體を去のこ小
て毒へ除び遂小る身體缺損ていひにともをべあらざるにい
たれさる。はと薰藥とくけふに成鼻へ薰劑あり。こき尤妄投べ
あらざるもの小く。大小酌用あるあせり。然と病と藥の對抗

をも辨じ、妄小用て聾盲とあり。或ち生命成害ものも。世小多見
たれとあるなり。故小至仁しく絶伎の醫工小遇にあらざるより
も。決して其所措小軀殼を委託べた小あらば、俗家小もよく記
す。慘刻の手小誤らる、ことなるたれ。若惣く如茲藥劑を過
用たる時小ハ。却て涎の出るるに成可とも。若涎も流む。瞑眩と
るあとなけむ。後年腫脹を患て。不治の證と爲るものあり。或ち
變りく勞瘵小ありたれとあり。故小大小懼をたれとあり。又世
小生乳といふものを内服せしむる人あり。元來あゝの事を支
那人小叙く。專用來しなむとせむ。此藥劑中ち小。譽石などいふ至
毒藥ありて。尤猛烈故小。其効速あるやうなきども。遂小害を醸

て癩毒愈た^{オモウ}と思^{ヨロコブ}く喜^{トケウ}まも^{シニ}かく。吐血^{トケウ}しく死^{シニ}するをのなごを
見たり。宜^{ヨシ}ま^{ヨシ}れ^{ヨシ}る^{ヨシ}ぬ。此^{コノ}藥劑^{ヤクザイ}も^{モト}周禮^{シユライ}とい^{ホニ}ふ書^{ホニ}小^{コト}出^{イデ}て。今^{イマ}時^{トキ}の
附^{ツケ}骨^{ボネ}疽^{ジュ}を^ヲう^{ケル}の^{モノ}の^{コト}小^{コト}外^{ガイ}傳^{デン}た^ル劑^{ザイ}を^{モト}い^フの^{コト}小^{コト}舛^{マダ}錯^{サマ}て^テ内^{ナイ}服^{フク}劑^{ザイ}
小^{コト}用^{ヨウ}る^{モノ}も^{モト}に^{ヨシ}ら^ズま^シけ^ん。い^ハと^ハ凶^{クワ}妄^{マウ}な^ルお^とあり。和^ワ漢^{カン}も^モ小^{コト}。
此^{コノ}藥劑^{ヤクザイ}を^{モト}服^{フク}て^テ人^{ヒト}を^{モト}損^{ソム}る^{モノ}も^{モト}幾^{イカク}ぞ^カや^カ決^{ケツ}し^テ爲^ナま^スト^シた^ルお^とか
に^ハた^ラ惡^{アク}瘡^{ソウ}瘍^{ヤウ}の^イ治^イふ^タき^モの^{コト}小^{コト}傳^{デン}ま^ス。手^テ小^{コト}應^{オウ}ト^ク効^{カウ}あ^ルこ
と^モか^ノ周^{シユ}禮^{ライ}の^ウ中^{ナカ}小^{コト}載^{サイ}ら^レお^とし。又^{マタ}こ^ノ、小^{コト}俗^{ソク}家^カの^ト殊^ト知^チ得^{トク}べ^シ
お^とし。假^カ令^{トヘ}茲^{ココ}疾^{ヤミ}より^シ變^{ヘン}ト^シ來^キる^{モノ}證^{シヨウ}あ^ルも^{モト}自^{オノ}己^レも^{モト}的^{タシ}確^{カク}小^{コト}覺^{カク}より
と^モも^{モト}年^{ネン}所^{シヨ}を^{モト}經^{ケル}る^{モノ}身^{カラ}體^{ダミ}や[、]疲^ヨ弱^{ハク}た^ルも^ノの^{モト}一^{ヒト}應^{オウ}懲^{テイ}毒^{ドク}の^イ治^イ法^{ホウ}小^{コト}
て[、]輕^{ケイ}粉^{フン}や[、]う^ノ物^{モノ}を^{モト}多^{オホク}服^{フク}久^{キウ}服^{フク}こ^トも^{モト}大^{オホ}小^{コト}害^{ガイ}の^アあ^ルも^ノお^とあり。若^シ

く^ル其^{ソノ}等^{トウ}の^ク藥^{ヤク}を^{モト}服^{フク}藥^{ヤク}毒^{ドク}小^{コト}く^ル惱^{ナウ}者^{モノ}も^{モト}身^{カラ}體^{ダミ}各^{カク}所^{シヨ}及^キ關^{カン}節^{セツ}疼^{テイ}痛^{ツウ}腫^{シュ}起^キ。
夜^ヨ小^{コト}入^イて^テ劇^{ゲキ}甚^シく。或^シハ^ハ麻^マ痺^ヒ不^フ遂^{ズイ}或^シハ^ハ吐^ト血^{ケツ}。衄^{ソウ}血^{ケツ}も^{モト}常^{ジョウ}小^{コト}發^{ハツ}る^{モノ}。飲^{イン}
咳^{カエ}ご^と小^{コト}。心^{シン}下^カ膨^{フウ}悶^{モン}。或^シハ^ハ下^カ利^リを^{モト}く^ル。若^シハ^ハ眼^{ガン}孔^{コウ}陷^{ケン}沒^{メツ}視^シ力^{リキ}弛^チ弱^{ジュク}唇^{シブ}
齟^ソ青^{セイ}白^{ハク}津^{ジン}唾^ト粘^ネ稠^{チウ}耳^ニ鳴^{メイ}頭^{トウ}痛^{ツウ}及^キ鬱^{ウツ}悒^{イツ}敗^{バイ}意^イか^ノど^ノ證^{シヨウ}あ^ルま^シく。素^ソ分^{ブン}の^イ
癩^{ライ}毒^{ドク}の^イ狀^{ジョウ}小^{コト}類^{レイ}似^シた^ルも^ノの^イ小^{コト}。意^イ表^{ヒョウ}小^{コト}承^{テイ}劑^{ザイ}過^カ用^{ヨウ}の^イ誤^ゴより^シ發^{ハツ}る^{モノ}
も^ノの^イあり。と^モも^{モト}既^シ往^{ヤウ}小^{コト}。藥^{ヤク}劑^{ザイ}ゆ^ニ忌^キに^ハ齟^ソ肉^{ニク}糜^{メイ}爛^{ラン}流^{リウ}涎^{ゼン}ま^シど^シと^シ於^ニ
お^とし。更^シ輕^{ケイ}粉^{フン}劑^{ザイ}か^ノで^テ服^{フク}る^{モノ}も^{モト}酌^{シャク}用^{ヨウ}を^{モト}お^とし。然^{シカレ}と^モあ^ル證^{シヨウ}
藥^{ヤク}背^{ハイ}馳^チの^イ爲^ニなり^ルも^ノ毫^{コウ}も^{モト}注^{チュウ}意^イし^テく^ル。承^{テイ}膩^ニ粉^{フン}る^{モノ}の^イ配^{ハイ}合^{カウ}た^ル
藥^{ヤク}劑^{ザイ}を^{モト}與^ユて^テ患^{ワン}苦^クい^ハよく^ク進^{シン}ど^モ。尚^{シヤウ}病^{ビョウ}深^{シン}く^テ藥^{ヤク}淺^{セン}と^シ認^{ニン}て^テ再^{サイ}四^シ過^カ

用竟スル小死シを促マセあとあり。ここ是イ大大小顧コ念ロを念どんを念あるをららざらるをあとまり。ささをれば。微毒荏苒サウ歳ドク月ブをト超レ。百サ治ハ効キならず。肯察ソ小中コさらるを治リ術ゲを施んよ里を。廢ステ棄オく其自然ソ小委カさるのをさら。大オ利リを得るあとあり。是コレ一一切切の病小涉ヤて其用ソ心コ緊ロ要エ取セることも。首コ卷シ小を既述スるが如トく。无妄ム之バ疾ヤ藥ミをることなく喜ヨあらしいふ。古聖ム人カの教誡イをめく遺忘スことまらるべし。さらいをぞ。たら自然シ小のを任マく攝養イ小疎オ脱ロをを病ノ治セさるのをみ小あららび。體カ軀ラ漸シ小疲ヨ弱アリゆき。毒ド結ク益マ熾ク小まり。命イ期チを促小至ニり。故小沈ム痼カ疾ラの體を以藥ヲ石ヲと遠んとあらむ。必先ゼ膏ヒ梁ニ肥ル臆キを禁。酒イ色ヲを斷て。起卧キ動フ作ヲ節シ。腸カ胃ダの運輸コ小妨サ礙カく。

心コ思ロの鬱塞フぬやう小養キて後天チ命ニ小任マを死ことるり。然サと死らる。たとへ毒の爲小困ク蹙レ頭ハ頭テさる體カ軀ラあらむを卒ニ小命イと絶小至ニり。彼のうち小元ガ氣ニ鼓シ舞ハ之カを得く。鬱毒ド以シ漸シ舒シ散カあらむ。證よろしき腫デ瘍キを發さるの。又ち腠理カ鼻ダ陽ヨ小從シ。汚ド氣ク排シ遣ク。自ゼ然ニ小平イ治ニのあり。のの天命チを知さる士ハ即チ中ニ愚カ贛ニ之カ民ト也。此段ノ小於クや、疑を致すのもあるをけきぞ。是予ヨが多年ト歷シ驗シ治リ法ヲ小いく。所イ謂ハ藥ヲせば一ニて中醫イを得といふ。古コ人ノの意を得て説ところなきを。沈潜シ反シ覆ク能ク其リ理ヲを明むべし。又此ノ疾ヲを療さる小も。專腠モ理ハ鼻ハ陽ハ之ハ開ニ達スと。小便ノ通シ泄シ。意ヲ致ス小あらざるを。平治スること能む。故小病ガ歳ト月ヲを歷たるものハ。單ニ小腫ム脹ク小

便不利を治する法小從ひ効を得こともは、あるおとあり。然
そのち第二の卷赤小豆の條下小述たると。此卷尾足痺の條小
説ところと參互て。飲食の禁戒を謹持こと喫緊あり。志のハあ
まども。其初發下疳瘡便毒楊梅瘡など成患る病者與體瘦血枯
たれもの小。無毒魚肉及鴨雞の類ををりく喫せ。滋養を要す
ことあるも。二の卷飲食禁忌の條小述るが如きものおを。こ
かく小輕果小して。大小車を誤べ。まよ世小稱譽以五寶丹
のぶと死る。膏梁を遠け。鹽を禁めど。小水を通利さる小
よして。暫時の効を奏ことあるまがふて。其毒の根を抜小至さ
まども。機小觸り利あるとあり。たゞ憎べた。貪墨の墮人の蒙

昧の病家の窮厄小乘て。こまらの藥劑を用るこ揚言。安小財
利を得んとする。不仁の咎も。僕をへてをいひつく。おたし。
まよよ、小知得べたこと。男子の黴毒あまを。其身體肥滿
たるもの。生涯害を爲ことかたもの多き故。自己も其毒
あることを覺悟も。その妻妾小毒を傳く。病さねるものあり。惣
婦人の家にあるおひさも爽快かる。嫁く後多病小なりた
れも。多し。其夫の癩毒を受たる小因もの多。も。然。速其夫妻
の毒を並治するにあら。孫バ。疾苦を除た。又小兒の遺毒と
いふも。其父母の癩毒を胚胎の中。小傳さるも。固論なれこと。ま
まども。その父母もまよこ。成免身の。前小受得たる。血肉の

中小カクレ潜伏レ。癥病シヤクキアルヒ或も各異サマサマの病状ワケラヒと爲ナリて生涯シヤウガイソノ其癥毒マツドク於ルまこと
と自己オノレも覺悟サトラフさるとのあり。故ユエ小兒コドモの病ヤマヒ遺毒タイドクといふこと
代口イヘ小兒コドモ稱イハども。まこと父祖オヤヤイイ相襲サウシヤクの微毒サイドクありまこと。更コト知ラものあ
らざまこと。小兒コドモをシく徒イタラ小病ヤマヒ苦クを抱イカめ。遂ツヒ小兒コドモ横夭ワカレニを致イダしむ
るに至イタルまこと。俗家レロウト小兒コドモあまらざるまこと。醫士イシヤのまこと。ら
のまこと。小兒コドモ意イを注ツルものまこと。あらねば。治術レツヂ小兒コドモ於イく謬妄アヤマリを致イダ易ヤスし。
簪纓サンギョウの病ヤマヒ多オホキも。此毒コノドクを枕席ヒトツチの間マ小傳ワタリく。暗カクレに其患ソノケレヒを兒孫マゴコ小傳ワタリく
ども。扱サツれらの議ギ小兒コドモ及オホまこと。なく。郷原ヘノラヒ鑿イシヤの爲タメ小兒コドモ誤アヤらまこと。猶ナホ悟サトルも
のかれ。時世ジセの勢然イキニヒレカしむるまこと。小兒コドモ亦イタ如何イカニも爲ナスべ
らまこと。なり。近屬チカゴロ貴人キニンの兒コ小驚癩キヤウウオ多オホクし。而シカモ治チまこと。少

兒コ。其胎胎ソノタイの初ハジメ小兒コドモ釀成カモシまこと。の遺毒タイドク小兒コドモ因ヨルもの多オホク。又乳媪ウラバま
ま。里サトその毒ドクを輸ツタへ。まこと治チまこと。知チラ。且ツタ保愛テアテ過度レの自シ
然カン小兒コドモ戻マま。多オホク過失アヤマリま。自シ之ヲ來キタま。ま。のなま。第三ダイの卷クマ小兒コドモ
の條ジョウ。其槩略ソノアラマシと述ノミま。能讀ヨクヨミて其旨ソノオモヒを領コトウべし。かくハ言イハども。
此遺毒コノタイドクを治得チトクん小兒コドモ。尋常ヒトノホリ癥毒ヤウダクの治法レウホウ小兒コドモ從シヤウく。ま。損害ガシを致イダ
ま。あま。而シカモ其治術チシユツの精理スヂメ小兒コドモ於イく。敢アエて之ヲ秘ヒま。ま。ふま。あ
ま。俗家レロウトの知得チトクべし。ま。此編コノヒン小記シヨウキま。得エべ。獨嘆トクタン
近世チカゴロ此病コノヤマヒ害殊マヒトシ多オホクま。人ヒトの能覺ヨクサトルま。の寡スカキ故ユエ。かく丁寧テイテイニ反覆クワカシて。
俗家レロウト小論シヨウロンま。ま。た。其廢殘ソノコト横夭ワカレニの患ケレヒあま。ら。ま。あ
ま。庶幾シヤカま。なり。猶ナホ首卷ウタマヘ五車ゴシャ調和テウワの編ヒン。病ヤマヒの起原キゲンを論ロンま。ま。ま。

ろと參互カンガヘアハセ。細心チンゴロ小知得コハロク。答コタヘに在アる。

又最懼モトモオソルべきも癩病ライビヤク。古人の天刑病ケイビヤクといひしを宜ヨシあり。然シカる

あまごを其身體ソノカラダ既小潰爛腐蝕ウミタシクサレたるものも能灌ヨク水治ツク。治テ法ホウ小委マカス

を偉効スベクニカクと奏アゲスことあり。あま予ヨの創意オモヒツキの歴驗ケイケン小古ムカシ人のいまご

言イヒ及オモホシざることぬ。其説ソノセツの詳ツギハシカラシことハ。灌水クワンスイ考カウ小載ノセたるは。あま、に

いといはば。此證コノシヨウま、癩毒ライドクより變シト來キタルものあり。とまら癩毒ライドク

の療法レウホウ小從シテて治ガとべし。ま癩瘡ライサウより變シトたるものあり。とま

ハ癩瘡ライサウの治術テアテと施ナシて可ヨけとま。こまらの類ルキも。病成年所ヤマトシヨシを經ヘ

たるも。尋常ヒトトホリの藥劑クスリのよく治ガとべた小あらば。かく似ニて非シもの

あれが故ユエ小。よく其由ソノヨウ來キタルところを究キム。こまを決サズべきこと小

。一槩ガイ小廢殘フヂの病ヤメとのみあをふるらば。かほ第二ダイの卷マキ飲食ウケモノ
宜忌ヨシアレの條ジョウ下小癩シトヤクを患ウケるもの、深山ヤマノ小道ミチて能治ヨク得エる譚タンを
載ノたりし微意オモヒを會得カヒし後ノチ。その所置テアテを爲ナスべたなり。

肥前瘡ヒゼンガサの心得ココロエを説ト

肥前瘡ヒゼンガサ其初ハジメ肥前州ヒゼンノクニより傳ワタへたる病ヤメなまは。かくも名ナはけたる
なり。此名コノナ小由ヨリ考カウる小。此毒コノドクを瓊浦ナガサキへ傳ツタへるも。邈トホらぬこと
ぢと思オモへる。あまの毒ドクの質シヨウも。ふろく滲透シメトホラび。皮肉ヒニクの間アヒダを浸淫オカレカスルもの
あまごも。漸シダシ小内攻ナイサウをまむ。筋骨内藏スネボネハランウチ小及オヨブこともあまごも。とま
る稀マレまることぬ。をせ輕カロき毒氣ドクキ小。此瘡コノサウを患ウケるもの小親シヤク
觸ツ近チカ小非アヤまは。傳化ワタルことあり。故ユエ小こまは避サんこと尤モト易ヤスし。且ツ緩ユル

慢ヤマヒある病ヤマヒなまむ。轉輸タツリて卒サツク小蔓延ハビコルことかくく。月日ツキヒを歴ツるま
里ユビノサキ指梢ユビノサキ小觸フシく傳ツクるものも。指ユビの叉マタ小初ハジメ二三フタツミク顆結デキチ起チく。他所ホカ小あ
くハ。速サクその顆粒デモノを刺傷ハリニテサレく。血チを多くオホ瀉ホリ出イダせハ。輕易テカルク平治イユルあり。血チ
を出イダシく後ノチ硫黃イワウタウの末コを塗ヌルこと尤モトモよく。初發シヨボツいさゝの痒カユミのくあ
里デキモノトオモハシキモノ去サく。出沒シツ無定ムテイころも。湯ユの花ハナ小あらぬ硫黃湯イワウタウ小浴イルも佳ヨけさど
も。顆粒デモノ稠多カズオホ小あまてハ。刺サスとむ及オヨビたたく。刺サレく血チを洩イダシても毒ドクハ
去サズ。はさ浴湯ユをも禁イムむるなり。其毒勢ソノドクキスデ已サカシ小盛サカシ小ならんとむる
ものも。速膿潰ハヤクウマくむべし。世ヨに打藥ウチヤクと稱イヒて。巴豆ハハヅ三四モシヨク大風子オホカゼコ七
八モシメを細末コ小く。火酒シヤウキウ小浸ツケく。その酒サケを患處デキモノ小ぬまき。膿潰ウマくむ
るものあり。こまらにくよきことあり。週身シツミ患デモノあらハ。週身シツミへ施スル。

但タ陰所マへ發デキたるハ。苦痛クツウ小堪タふたれものあまむ。陰處マ内股ナカモを
避ヨケく塗ヌルべし。婦女フナナ必乳カミナの邊アタリをも避ヨケべし。若モシこの藥ヤクを施スルん小も。
あま里ハヤ早ハヤきハ効カウあり。空小膜理イサカ小此ココの細瘡コホシカサを發ハツするまで小て。
毒ドクを誘導サソヒイダスに至イタラむ。尤モトモ知得チドクあるを記キことなり。癰毒オウドクと此病ココノヤマヒの
初發シヨボツとハ。火災カワサイの起オコル小譬タトフべし。一ヒ點テンの火忽物ヒヤクモノ小つれく焰カホを發ハツす
るとれ小。速撲滅ハヤクウチクス小も。何ナニの勞苦ホマヨリも費イルべららば。必カナラく燎原ウヨキヒノテ之勢チノセ小
いたらしめく。臍ホツを噬カムの悔クヒあることなるも。肥前瘡ヒゼンカサの緩慢ユルヤカなる
も。其患ツノサレヒをで小周身サツミ小及オヨシぐも。膿化ヨクウマ小あら補ホむ。いゝ小こを爲ナシむ
たし。前後ダイヒシヤベシ洩シツよ里毒ドクを除ノゾクんことく。安ヤス小駛藥カシヤクを服モクハ。大オホ小損シム
害ガイとみることあり。然シカと。此時コノトキ小至イタリく。夫人フじん釀膿ウマむく速サク小治イユルこ

とを欲^{チカ}故^ニ小^{ナイ}内陷^ウして腫脹^{ムクミ}を發^{ハツ}し甚^シきもの衝心^{シヨウシン}し死^シぬ
ることあり。衝心^{シヨウシン}劇^ハものも大小便^{ベシ}とも小秘閉^{トゲ}通^{ツウ}せ^ズば苦悶^{クルム}る
也。おもしろ大小^{ヘビ}下^シる。肥前瘡^{ヘビ}の内陷^{ナイカウ}より。小水^{ベシ}不利^{ツツ}水腫^{スイレウ}とら
ば。鹽醬^{シホミソ}米粟^{コメ}魚^{イサ}鳥^{トリ}一切^{サイ}を禁^{イミ}ず。單^{ヒト}小赤^{アグ}小豆^{グキ}一^バ品^{カリ}を煮^{ニテ}喫^{クハ}むべし。
數^{ビシ}日^{ナニチ}小^{ベシ}便^{マヨク}爽利^{クツク}あり。蓄^{タマリ}水^{ミヅ}去^{ツク}て元氣^{ゲンキ}旺^シふかば。再^{マタ}膿^{ウミ}を成^{ナス}
なり。と腫^{ハレ}去^{ヒキ}後^{ノチ}も瘡^{ウケ}猶^{ナホ}發^トざるものも必^{カナラ}速^{ササク}小解^ゲ毒^{ドク}をべし。世^ヨ
人^{ヒト}此^{コノ}毒^{ドク}の緩慢^{ユルヤカ}あるを忽^{アナドリ}視^ミず。安^{ヤス}小傳^{ツケ}藥^{ヤク}をどし。速^{ササク}小愈^{イユ}んこ
と代^{モト}欲^メかゝる大患^{オホサナヒ}とるもの多^{オホシ}必^{カナラ}く膿^{ウミ}潰^マびて愈^{イユ}もの
小^コあらばと牢^コ記^キべし。其他^{ソノ}此^{コノ}毒^{ドク}の内陷^{ナイカウ}より。大熱^{オホツヨク}譫語^{ウガイ}殆^{シテ}傷寒^{シヤウカン}小
類^{シマカフ}似^ニものを施^シ治^ヂしたることあり。ま肺^{ハイ}癰^{イヨウ}小^コもな。疰^{ウツ}病^{ビョウ}小^コも

ありたるを見^ミたることあり。近^{チカ}屬^{キョク}も一^{ヒト}老^{オホ}嫗^{ニョ}の肥前瘡^{ヘビ}を患^{ヤミ}し
し。其^{ソノ}痒^{カユミ}小^コ堪^{コラ}ぬ。祢^ニ頻^{ヒン}小^コ浴^{ユク}したる。忽^{タチ}身^ミ體^{タイ}麻^マ木^{ボク}語^ゴ言^{ゴン}こと能^{ナラ}ば。
全^{マタ}疰^{ウツ}病^{ビョウ}の状^{サマシ}あること五六^{イハ}日^{ニチ}なり。小^コ内^{ナイ}托^{ダク}劑^ジを與^ユする。相^{サウ}應^{オウ}
して。週^{カウ}身^シ小^コ肥^ヒ前^{ゼン}瘡^{サウ}再^{マタ}發^{デキ}て。疰^{ウツ}病^{ビョウ}の患^{ヤミ}除^{ズク}することあり。其他^{ソノ}疰^{ウツ}癰^{イヨウ}
小^コなり。黃^{ワウ}疽^{ジュ}小^コなり。或^{アルヒ}留^{リウ}飲^{イン}などにかま^カたれをありて。病^{ヤミ}の變^{ヘン}
化^{クワ}預^{ヤク}纒^{マキ}舉^{キョ}たし。其^{ソノ}變^{ヘン}ト^ト他^ホ病^{ビョウ}となる。小^コ至^シ醫^イ師^シま^マぐも其^{ソノ}原^{ゲン}
由^ユを明^{アキラ}ること能^{ナラ}ざる。小^コ至^シなり。此^{コノ}病^{ビョウ}も異^イ邦^{ホウ}より傳^{ツタ}来^{ハリ}し。種^{シュ}
毒^{ドク}あること。絶^{タケ}て悟^{サト}らば。小^コ兒^エを郷^{キョウ}里^リ小^コ携^ケり。他^タ人^{ジン}の抱^{ダキ}負^{カネ}た
る也。此^{コノ}毒^{ドク}小^コ觸^カ或^{アルヒ}乳^ウ母^ボの嘗^{カウ}く。赤^{セキ}を罹^{ヤミ}する。其^{ソノ}毒^{ドク}を除^ク盡^{ツク}ざ
るをも知^{シラ}ず。兒^コを屬^ルる。類^ルなり。小^コ兒^エ小^コ此^{コノ}瘡^{サウ}を發^{ハツ}した

るを俗小胎毒とつゞく遺毒の類とをさざむ。大なる誤なり。い
まご痘瘡せざれば見小此患あらを尤速排毒平治さむ。痘瘡の
と此の妨と相するものなり。此病も往古を決して無ところ小て
おま小類似たるものを擧ぐ強て疥とていふ古名を命と
も。疥とたけがさとも。別のものなり。はさ此瘡を患るものも
汚穢臭氣を禁が故小。衣衾をもをりく洗濯して用む。

陰癬の心得を説

陰癬の其初陰囊濕癢より。漸小兩股の間小浸淫状宛も油の物
に著たるがびとき小由り究む。此病も皮下肉上の脂肪小預
ものと見えたり。多る保養過節酒を嗜肥膩膏粱を過及重茵厚

衣或も視襠を常小着ことを好む。若る浴を好む。陰所を洗
淨こと少き人あど小は、ある病なり。またもこの病あるもの
より毒を傳輸し患あともあり。また赤白帯下の病ある婦人と
交接してこの病を得もあり。そし然ざるものも自己の癩毒より
變りく。此證小あるなど。其因多端なごも。とべく此病を平治
ん小も。先其肥膩辛辣與熱性の食料を禁。酒を喫ことを戒め。
強て其身體陰處を日々洗浴令潔小あら糸ハ。効を得さし。こ
とららることと會得せむ。た。異なる貼藥をし。速小愈んこ
と戒要むららび。假温泉及蒸漏劑など。此病小的應さるもの
ありといふごも。内治を兼く施さころの酌用喫緊なり。此病を

治ん小へ。殊其小便の通利を要す宜しき也。第二の卷及此冊足
痺の條小述し攝生法を持てよ。尤大便を微利させ。壅鬱の氣
を疏通るゝの宜く。峻劑をば用べし證小へあらば。ま、膏藥
法用ることもおまじ。細心なれ鑿工を松脂瀝青獸脂を配合
たる膏藥を貼るのま、あり。若こ是らの膏を貼る間も其痛
苦を、緩和するやう小知れども必後日の害をなすことなき
べ。俗家小も其思理切要なれ。然と此病小係ものる。偏小その癢
小堪の秘す。妄意な藥を貼る。一時の快を欲せども。元來この病
の原由を至深もの小く。貼藥或も蒸濕劑かどのをを用て。治
得たるもの。終小内攻し心腹の憂をなす。生命をも害する

もの比比あるまとなり。陰癰内攻して内翳眼小をなすを。た
びく療治したることあり。勞瘵小ありたるも見たり。老人小
便失禁癰病小なるも。頭小愈て卒死したるもあり。ま、壯
年の人いさ、この陰癰小貼藥を用て。治したる間も。周
身の骨節大痛て堪たたく。苦楚しを施治しなれことあり。
何小も如此證を見る小。陰癰再發して。穂小あるもの。十の八九
あり。予嘗て陰癰内攻し。腹痛拘攣もの小。他の陰癰ある人の
内裙をのまき着させしに。陰癰再發す。藥を用る小及びし。治
したることあり。惣く藥治のみと小至る。妄小記す俗家小も
示さるること多し。此編小も載べ。こ、小なれば。其癢小堪

かたれをの、爲小灸をる處を傳べし。其處ハ脊髄の端小尾骶
といふところを按て見よ。小尖骨の下小垂たるあり其尖端
を指し多按く。陷ところの肉あひ小一處こ、ろながく日々灸
とよハ。癢漸小輕緩ふるものなり。おの穴處も。肛門と脊髄端
の正中小あさるあり。中指同身寸を取て二小折まへの穴處小
あり。左右兩旁小點し。三處ならべ灸をることまきくよし。

傷寒病のお、ろえをこく

傷寒といへむことぐりたをうにおをひく。おの熱がつの色を
傷寒小ぬるべしと鑿者もいひ。さやう小記得ともがら世間小
多けきごも。元來傷寒といふ文字も。寒氣小をぶらる、といふ

までのこと小く。世小のせひきたりといふも同ことなまハ。謔
語直視あごの證小いたらばとも。寒氣小觸胃をく。頭痛發熱惡
寒あどあるをトめよ。傷寒あり。然を漢土小くも後世の鑿書
小も。其輕もの小感冒といふ名を命たり。其をらよ。鑿人も承
訛たることなる。病名あごらいる名をよぶとも。深害あ
ら糸ども。むきらせと傷寒といハ。懸隔のものと思く。妨みしと
といふをららば。又温疫といひ。時疫と稱るものもあまごも。疫
といふを役といふこと小く。世間一統小流行く。家々ごと小免
ことなれお。公役小差まごるごときを見て。疫病とも稱し
あり。温といハ熱のこ小く惡寒のなれをいひ。時疫の時ハや

をまひといふまでのこと小く深意なし。先年西國より江戸小
流行したる。於七のせ。たん不風など、俗小呼し類を。疫ともい
ふ。病こと兩三人小過ぐ。流傳て。蓋家或る親故五六輩小超
ざるもの小。疫といふ名も如何あらん。然ども此稱呼もいと舊
ことぞ見え。右書小。傷寒と雅士之辭。天行温疫も是田舎間之
號といひ。はた貴勝雅言も總々傷寒と呼。世俗因號で時行と爲
とあるなどを視る。其誤稱ハ昔よりありしことなり。今の
世小ハ。醫者小も。傷寒といひ。時疫といひ。感冒といへ。各別の
差あるやう小思やのらあき。治術も鹵莽居多。かくもいへど
も。世小所謂感冒の。鼻清涕を流し。頭疼。咽喉痛或る咳嗽あり。

旬日を経ものを。委棄治を加げと。さして熾熱も發じ漸小い
ゆれものあるも。其初の感受や、淺し。別あるがごとくなき
を。如此と名く感冒とも曰ふ。けさ。あ小、感ト胃をたりと説
糸ハ。倉平小聽て。辨つたは稱あり。纖悉小之を論む。さ。たハ
感受の輕重あるのら。傷寒の其初。頭痛。惡寒。發熱より來
るもの。邪毒小差別あ。小あら。況傳染流行の疫小於ら。
必其病因各異小。同ものあるあとなし。故小其病證をまと
一のら。治法の差あ。小非。一切の事。其の要領を得て。
簡約小をること。善と。醫術も亦然。惣々人身の熱を發せ。
獨寒氣小觸。又る疫毒を傳もの、之小非。世醫も動ハ熱

劇^{オホキ}を^{オホキ}槩^{オホキ}く^{オホキ}傷寒^{オホキ}或^{オホキ}時^{オホキ}疫^{オホキ}との^{オホキ}い^{オホキ}ひ^{オホキ}て。詳^{オホキ}其^{オホキ}病^{オホキ}因^{オホキ}を^{オホキ}辨^{オホキ}べ^{オホキ}いと
疎^{オホキ}脱^{オホキ}る^{オホキ}こと^{オホキ}の^{オホキ}多^{オホキ}。又^{オホキ}た^{オホキ}病^{オホキ}名^{オホキ}を^{オホキ}穿^{オホキ}鑿^{オホキ}る^{オホキ}も^{オホキ}と^{オホキ}鑿^{オホキ}伎^{オホキ}の上^{オホキ}小^{オホキ}
も^{オホキ}無^{オホキ}益^{オホキ}なる^{オホキ}こと^{オホキ}多^{オホキ}け^{オホキ}と^{オホキ}ぞ。其^{オホキ}名^{オホキ}小^{オホキ}因^{オホキ}て^{オホキ}實^{オホキ}を^{オホキ}誤^{オホキ}こと^{オホキ}も^{オホキ}あ^{オホキ}と^{オホキ}ば。俗^{オホキ}
家^{オホキ}小^{オホキ}を^{オホキ}其^{オホキ}大^{オホキ}旨^{オホキ}を^{オホキ}記^{オホキ}得^{オホキ}て^{オホキ}よ^{オホキ}に^{オホキ}こと^{オホキ}あ^{オホキ}り。往^{オホキ}昔^{オホキ}の^{オホキ}、^{オホキ}名^{オホキ}も^{オホキ}大^{オホキ}概^{オホキ}
なる^{オホキ}こと^{オホキ}を^{オホキ}見^{オホキ}え^{オホキ}て。雅^{オホキ}士^{オホキ}之^{オホキ}辭^{オホキ}と^{オホキ}い^{オホキ}る^{オホキ}と。漢^{オホキ}の^{オホキ}世^{オホキ}あ^{オホキ}たり。天^{オホキ}下^{オホキ}一^{オホキ}
統^{オホキ}。人^{オホキ}より^{オホキ}人^{オホキ}小^{オホキ}輸^{オホキ}て^{オホキ}病^{オホキ}もの^{オホキ}。あ^{オホキ}か^{オホキ}ち^{オホキ}に^{オホキ}寒^{オホキ}氣^{オホキ}小^{オホキ}觸^{オホキ}冒^{オホキ}と^{オホキ}る^{オホキ}小^{オホキ}
も^{オホキ}あ^{オホキ}ら^{オホキ}ぬ^{オホキ}統^{オホキ}く^{オホキ}傷^{オホキ}寒^{オホキ}と^{オホキ}稱^{オホキ}小^{オホキ}も^{オホキ}知^{オホキ}る^{オホキ}也^{オホキ}。何^{オホキ}小^{オホキ}も^{オホキ}人^{オホキ}の^{オホキ}勝^{オホキ}理^{オホキ}と^{オホキ}
觸^{オホキ}冒^{オホキ}べ^{オホキ}に^{オホキ}寒^{オホキ}冷^{オホキ}の^{オホキ}氣^{オホキ}小^{オホキ}。古^{オホキ}今^{オホキ}の^{オホキ}差^{オホキ}別^{オホキ}も^{オホキ}と^{オホキ}よ^{オホキ}り^{オホキ}な^{オホキ}く。四^{オホキ}時^{オホキ}と^{オホキ}も^{オホキ}小^{オホキ}有^{オホキ}
也^{オホキ}。分^{オホキ}の^{オホキ}こと^{オホキ}を^{オホキ}さ^{オホキ}べ。暑^{オホキ}月^{オホキ}納^{オホキ}涼^{オホキ}の^{オホキ}假^{オホキ}寐^{オホキ}小^{オホキ}も。お^{オホキ}せ^{オホキ}む^{オホキ}き^{オホキ}て^{オホキ}惡^{オホキ}寒^{オホキ}も^{オホキ}
。清^{オホキ}涕^{オホキ}も^{オホキ}出^{オホキ}る^{オホキ}也^{オホキ}。而^{オホキ}を^{オホキ}傷^{オホキ}寒^{オホキ}る^{オホキ}昔^{オホキ}ハ^{オホキ}有^{オホキ}て^{オホキ}今^{オホキ}の^{オホキ}世^{オホキ}小^{オホキ}稀^{オホキ}る^{オホキ}也^{オホキ}。

ど、いふ輩^{オホキ}も。の^{オホキ}支^{オホキ}那^{オホキ}の^{オホキ}一^{オホキ}鑿^{オホキ}の^{オホキ}餘^{オホキ}唾^{オホキ}を^{オホキ}拾^{オホキ}て。深^{オホキ}も^{オホキ}推^{オホキ}窮^{オホキ}ぬ^{オホキ}謬^{オホキ}小^{オホキ}
。事^{オホキ}實^{オホキ}小^{オホキ}害^{オホキ}ある^{オホキ}説^{オホキ}ども^{オホキ}なり。志^{オホキ}を^{オホキ}ら^{オホキ}く^{オホキ}古^{オホキ}名^{オホキ}小^{オホキ}從^{オホキ}べ。沿^{オホキ}門^{オホキ}闔^{オホキ}戶^{オホキ}傳^{オホキ}
。染^{オホキ}て^{オホキ}病^{オホキ}者^{オホキ}と^{オホキ}傷^{オホキ}寒^{オホキ}と^{オホキ}云^{オホキ}也^{オホキ}。其^{オホキ}中^{オホキ}小^{オホキ}熱^{オホキ}の^{オホキ}と^{オホキ}小^{オホキ}惡^{オホキ}寒^{オホキ}か^{オホキ}れ^{オホキ}と。温^{オホキ}
疫^{オホキ}と^{オホキ}も^{オホキ}温^{オホキ}病^{オホキ}と^{オホキ}も^{オホキ}別^{オホキ}て^{オホキ}呼^{オホキ}ぶ^{オホキ}。た^{オホキ}、内^{オホキ}因^{オホキ}より^{オホキ}來^{オホキ}る^{オホキ}熱^{オホキ}も^{オホキ}。各^{オホキ}稱^{オホキ}あ^{オホキ}と^{オホキ}
ば。傷^{オホキ}寒^{オホキ}と^{オホキ}も^{オホキ}い^{オホキ}ひ^{オホキ}び^{オホキ}た^{オホキ}る^{オホキ}也^{オホキ}。其^{オホキ}を^{オホキ}ら^{オホキ}の^{オホキ}證^{オホキ}の^{オホキ}熱^{オホキ}劇^{オホキ}さ^{オホキ}も^{オホキ}。十^{オホキ}の^{オホキ}一^{オホキ}
ニ^{オホキ}小^{オホキ}を^{オホキ}過^{オホキ}び^{オホキ}稀^{オホキ}る^{オホキ}こと^{オホキ}小^{オホキ}。我^{オホキ}邦^{オホキ}小^{オホキ}支^{オホキ}那^{オホキ}地^{オホキ}方^{オホキ}の^{オホキ}と^{オホキ}也^{オホキ}。酷^{オホキ}虐^{オホキ}
疫^{オホキ}毒^{オホキ}の^{オホキ}流^{オホキ}行^{オホキ}も^{オホキ}な^{オホキ}く。輕^{オホキ}き^{オホキ}時^{オホキ}行^{オホキ}病^{オホキ}も^{オホキ}少^{オホキ}る^{オホキ}こと^{オホキ}小^{オホキ}。真^{オホキ}の^{オホキ}傷^{オホキ}寒^{オホキ}居^{オホキ}多^{オホキ}
中^{オホキ}濕^{オホキ}病^{オホキ}も^{オホキ}間^{オホキ}有^{オホキ}て。其^{オホキ}中^{オホキ}小^{オホキ}内^{オホキ}因^{オホキ}より^{オホキ}發^{オホキ}する^{オホキ}も^{オホキ}あ^{オホキ}り。日^{オホキ}數^{オホキ}經^{オホキ}過^{オホキ}と^{オホキ}
ば。何^{オホキ}も^{オホキ}人^{オホキ}より^{オホキ}人^{オホキ}小^{オホキ}傳^{オホキ}染^{オホキ}る^{オホキ}也^{オホキ}。故^{オホキ}小^{オホキ}熱^{オホキ}劇^{オホキ}を^{オホキ}病^{オホキ}者^{オホキ}の^{オホキ}體^{オホキ}に^{オホキ}惡^{オホキ}臭^{オホキ}と^{オホキ}知^{オホキ}
む。其^{オホキ}毒^{オホキ}小^{オホキ}觸^{オホキ}冒^{オホキ}さ^{オホキ}る^{オホキ}や^{オホキ}う^{オホキ}小^{オホキ}用^{オホキ}意^{オホキ}く^{オホキ}よ^{オホキ}。と^{オホキ}、真^{オホキ}の^{オホキ}傷^{オホキ}寒^{オホキ}感^{オホキ}冒^{オホキ}の^{オホキ}初^{オホキ}

發と確知く。惡寒あるも。速令汗べし。其初起を疎放し。汗よ
理解せざる故。漸小病勢進て大患小至しむるなり。世人の傷
寒小く瀕死ものを見る小。十が七八も皆初發の所置の差故
也。その死ぬるはぐ小至ざるも。荏苒とく解せば年月をとた
れ病とあるもの多れも。皆こを其初小誤るばなり。故小の
輕く感冒ともいふ。瘧疾の初も。真小傷風と知バ。鑿と招までも
あく。過被覆く汗を取ふよ。若汗とべれ際もあきとれ。衣服
を層て體と勞動し。とりく。暖水を飲。温物を啖て。腠理の温燠小
あ。於やう小く。周身の陽氣を昇達せしむる。昔時ある。純樸
なる老人の予小説話たることありし。世小神佛の訶護不ど

可仰ものちか。いつものせむきた。里とおをるハ。惡寒も。骨
節の疼頭痛の甚きとれ小。其苦腦を忍ぶ。平素祈念する神前
小。燈を點香を炷て。速小愈んこと。伏乞。起て拜し。伏て拜する
數百遍。中間を早く。熱湯を喫で。氣息をたをけ。拜し了て。そのま
ま小被萬の中に入るとき。身體の疲小。ねをまげ。一睡する小。從
ひ遍身汗出。必治すること。の速ある。藥を服たる小。優里と言
し。もの。於老實の輩小。神佛の加護といは。いふ小。まのせ
よ。いのさま小。頭項肩脊手足を運轉し。關節の壅滯を利導して。
其勞動小。より。熱を誘發たると。暖水を喫。衣被を覆て。臥たら
ん小。睡をせら。汗も出邪も解とべし。と慮ま。これ小堪べ

凡人小教ヲレヒ試シ小。輕證カヨキモノハ必一汗カサヒトアセ小ク解ゲさるルあり。初起シヨホツ小排表ハツヒヤウと
れも。此旨趣コノコトなきハ。おまらのことよ。察サダべし。若其邪毒モレノクシヤキを人ヒト
に傳受ツクリたるもの。腠理ハダダヘを襲オカスのまらば。病毒シヤドクふく體中カラダノナカ小著カク
で。後小發動アハラレトもの。あまは。あく汗アセをの里ウラ小治イデルもの。ふあらば。
故小痘瘡ハツサウ麻疹ハシロ及天行病ハヤリヤミの類。其他少陰傷寒シヨウインヤウカンの汗アセをとるまども。
大小酌用サソクのありもの。なきども。さべく惡寒サムケありもの。先微汗サカカクアセ
さるが可キあり。綜サクベツ凡汗アセをとる用意ヨロエも。頭項アタマより手足腹脊テヒハラセまで
浹ニキソク治レトクて。熱レトクと腠理ハダダヘの露ウレホまで小出イダるを佳ヨシとも。汗アセをとるが宜ヨキと
て。妄意水ヤタラニを沃ウチけたるやうに出イダる。衣被キレモノも濕レシとるがごとき
も。大小オホキよろらび。重證オモキシヨウも必後日オホキニサスケの巨害オホキニサスケとるりとと。ととより

し。死シを招マカ小もの。いたることあまは。尤禁モツモキむべしことあり。其他
癥癖シヤクあるもの。思想喜怒モノオモヒヨロヒイカリの度ホドを過勞碌疲倦等スコレキチラツカレナド小由ヨリて。發熱チツツ惡
寒ヤヒをとるまりたるもの。飲食攝生シキクモシイケンシヤの度ホドを失ウシひ熱チツツを醸く病ヤヒと爲ナル
もの。濕蒸氣ハシタカシツキ小あまり。山嵐瘴氣ヤマゲレキ小胃オカれ。又も納涼舟行スバミヨチユサン小星ヨシを侵オカ
す。或も酒興遊樂サカモリユツキヨク小耽アズる。終夜寐オトホレイニさる故ユエ小身體カラダの機關グアヒを損失アヒし
發ハツしく熱チツツとるもの。類ルシも。皆傷寒ミナレハカンと世間セケン小稱トナきたまども。
彼腠理カノハダダヘと寒氣カン小觸冒チオカシたるもの。病ヤヒの所由トナ異ヒことあまは。其
治術リヤウジツ小區別シヤベツるしこと言イフ登トらば。况勞瘵毒マシテラダシヨウの急ニハカ小發動モヨホレく。熾熱シツキチツ
を發ハツしたる。微毒カラガサ小輕粉ケイフン生乳セイルクの類ルシを過用モトスく熱發チツツイダく。やまく識チカ
語コト狂亂キヤウラン小至イタルもの。婦人小產後フナナセウサンゴ小煩熱チツツシヨトとんど傷寒シヤウカン小類似ニヨリたる

者の類小いたり。其病因小霄壤の隔あきども。熱の劇。傷寒と混ト誤。齟齬たる治術小命を殞ことあり。故小如此病者ある家小くも。よく既往の所由を採得。當時の患状を照驗。纖悉醫師小告。危れこと勿論なり。惣くこまらの證と。傷寒疫熱との差別も。必證も脉も對比。渴ありくも。口舌乾燥。謔語あきども。古小苔なれり。熱あおれども。唇も裂む。又も深赤あること。朱を沃ぶおそくある。或ハ耳捷鼻よく香臭を聞こと。平常小を勝ことある。大便の通利も色相も。平素小異ことかた。なと。其他の證候も。傷寒疫熱とも差異あることあるもの。小く。縷舉か。ほ此他の病小も。熱劇外邪ならぬもの多け

色。假令熱燎のごとくありども。妄意小傷寒を主といひ。輕發汗吐下劑を行。害を招ことなれ。こ色の小域に世間小を謬執あることも多。傷寒の腹滿謔語。舌焦黃黑胎。大便秘閉。および下利などのあるものを。槩て陰證と稱ものあり。殊大なる濫名あり。傷寒の陰證といふも。其初。惡寒あきども。劇ことなく。漸小氣悶寐た。初發。それより漸小變ト。謔語をいふ小もいたるなり。劇熱。變トて陰證小爲もの。かた小のあら。今世間の陰證といふもの。病勢進。謔語直視。どの險證小成。厥冷の有無小も拘らば。槩く。陰證と稱こと。誤の尤ものなり。然と此陰證と

いふ名小由^{ヨリ}。其實^{ソノヤミ}をも誤^{トシテ}。脚爐^{コタツ}など小^ヒ冷^{ヒエ}たる體^{カダ}を温^{ヌグ}るや
りなる計較^{コトウエ}小^ヒ。附子^{ブシ}るごを頗^{シキリ}小^ヒ投^{モセ}。生命^{カラダ}を害^{ノコ}る輩^{モノ}尤^{モト}多^シ。も
とより附子^{ブシ}小^ヒ宜^{ヨシ}き證^シもあるかども。附子^{ブシ}の効^{カウ}も。令^{アタ}温^{ムル}といふ
こけ小^ヒ措^{モス}もの小^ヒあらば。故^{ユエ}小^ヒ熱^{ネツ}劇^ハ譎^ク語^ハ古^コ焦^セもの小^ヒも。附子^{ブシ}を
服^{モセ}て効^{カウ}あることあり。手足^テ厥^ヒ冷^ヒ。脈^ミ微^カあるをも。下^シ治^スこともあ
ま^シ。鑿^シ治^スの活^ハ手段^ハ小^ヒ至^スる。俗^レ人^{ロウ}意^ト料^シやうあること小^ヒあらば。
然^{シテ}と。鑿^シ者^ヤもかく謬^{コトウエ}會^ヘたる者^{モノ}あま^シ。其^{ソノ}説^{トク}ところ病^ヤ家の意^{コト}小^ヒ合^カ
ハ。國^{クニ}手^テぬりて病^ヤ者^ヲを委^マ任^セ。と色^{シキ}ガ爲^タ小^ヒ生^シを害^シことを覺^サさる
ものあま^シ。ま^シ不知^レ者^ヲ。下^ゲ劑^{ザイ}を投^モて熱^{ネツ}を瀉^{ダス}といふものあり。是^{コレ}
下^ゲ劑^{ザイ}の効^{カウ}とも。熱^{ネツ}の發^ハる理^リも領^リぬ故^ユに。怒^スて病^ヤの熱^{ネツ}を發^ハる

といふも。首卷^ハ小^ヒも既^ス小^ヒ述^セごとく。皆^{ヒト}人^ノ身^ノ機^ノ關^ノの自然^シ小^ヒ由^リ。病^ヤ
を排除^ハんとするものなれを熱^{ネツ}病^ヤを去^ルの具^カ小^ヒ。吾^ワ徒^ニ兵^ヲを
と^シバ。之^ノを攻^ムむもの小^ヒあらば。鑿^シハた^シ元^{ゲン}氣^キ主^シ宰^シの力^{チカラ}を扶^タて。
邪^{シヤ}毒^{ドク}を排除^ハんとするの抵^タ對^ト。過^{タリ}不^レ及^ズか^ラら^ズめんとするが
爲^タ小^ヒ用^ユるところの藥^ク石^シを使^サ令^シま^シるの^{コト}を^カり。其^{ソノ}抵^タ對^トといふ
る。大^オ凡^フ天^{テン}地^チ間^ノ小^ヒ一切^{サイ}所^ソ有^ラ之^{モノ}。大^オとなく小^ヒとなく。此^{コノ}抵^タ對^トの外^ノ
小^ヒ出^イものあることなし。四^シ時^ジの寒^{サム}暄^{ユキ}。昼^{ヒル}夜^ヨの長^{ナガ}短^{ミダ}を差^サざる。萬^{マン}有^ユ
の體^{カダ}を爲^シ用^ユを成^スも。悉^シ對^ト法^ハ小^ヒあらざるものなし。抵^タ對^ト小^ヒ毫^コ釐^{リン}の
差^サなれが故^ユ小^ヒ。日^ヒ月^{ツキ}の蝕^{シヨク}星^{ホシ}の出^イ没^{ボツ}も。預^ヨ察^{サツ}べく。君^{クニ}子^シも。人^{ヒト}の言^{コト}行^ト
と鑿^シて。と^シの吉^{キチ}凶^{キウ}禍^カ福^{フク}をいふこととの違^{チガ}ひも。能^{ヨク}相^{サウ}とるもの。

人の面部の骨肉氣色を觀。身體の動靜小由。受得たる福祿壽
夭と告ることの誤ざるも。皆よく抵對の理を説得せしむるあり。故
小人その有生の初より。生涯用べき財祿を宿有こと。定限ある
ものなることを知。少壯にして奢靡を極。其初享福厚。の
ごとれものも。老る用べき數量竭て困窮。初年より。儉虚小
く謹慎せしむ。晩節小いとる。用るころ餘裕が。おとれ。譬
ば財を入小擧。其息を併得。人の財を負。己より息を出。と
の差あるが。ごときものあり。故小彼を求。此を失。前小得
と。後小奪。必其人の果福小適て後小止。自然の理あり。の
の本支血屬の子孫の榮枯存凶も。亦此理小從。預知べく。古聖

人の中和を致。天地位一萬物育。と説たまひ。も。ま。自然
對抗の條理を説の外小いで。この法小。事あり理あり。豎あり
横あり。遠ものあり。近ものあり。一言以て説破べら。今吾
醫の藥を用。病を治。また。道の率。病と元氣の抵
對を察し得。有餘を損。不足成益。人身の自然小復。を
以て極旨と。且。初てもいふごとく。病なるものも。と人身
固有もの小あら。皆節養の度を錯。天命小戻。招。ところの
災。この主宰の元氣。を厭。と甚。排除。ことと
欲が故小。痘麻癩毒の類を得。へ。膿を醸。て。を體外小驅出
ん。身小害ある。飲食を容受。て。必除去。ん。痛をな。

甚きら上小吐下小瀉一其物を竭く後小止。今外寒氣小騰理を
壅塞也。或も傳染の邪毒小侵さく。元陽の循環小支障ある小よ
す。其壅塞たるものを排除んことを欲く。無表力を奮く。其邪毒
の輕重小從く。抵對ことを爲ところの熱なきを熱の病を驅逐
ための芥鉞あり。故小其邪毒の圍既小解て。敵さるものゝた小
至る。熱く自然小消く跡さきおとす。然らあさども。其邪と熱
との抵對小。過不及ありく。自然の力のさ小くも。病を去るたは
ことあるも。其人の稟賦の強弱と。所挾の佗疾の有無と。受得た
る邪毒の淺深厚薄あるの故小。彼元氣の力を究盡といへども。
邪勢熾盛小く。其力抵對さたき小至さ。終小ら其奔命小憊

く自然の力のみを以くも治さるまとな能さるものあり。その援
兵小用ところの藥物を監督さるの。鑿たるもの、職分あり。故
小其證小因ても。熱あるもの小猶催熱劑を與嘔吐若く下利あ
るものをも更吐下しめて。効を得ことあるの理も。此間より推
知也。然と性命の自然なるをも辨ひ。下劑の熱を瀉ものなり。
淺附の體を温元氣を補ものとのみ思ふ輩の。生涯真の鑿道を
知小難るべし。支那の黃冠道士や落第諸生の止こと得ば鑿
を業とし。杭を守て機變を知ぬ輩よりる。我朝中古の鑿人の
た小優たるもの多し。宋元以後の鑿説小も。殊採用べたことも
少けさ。偶温疫一病を論じたる一鑿。傷寒今の世小稀あり

と言奇説を唱く人を駭く。一時の名を鈎たるも憎むるがごと
くなきども。熱結旁流挾熱下利と云。大便下利小下劑を用べき
證を辯せしむ。や、治術の條理小合ものやいふを。その熱結
旁流といふも。大便の腸中小初より燥結なり。下降おたは旁
より。後ら轉輸大便の腸の調停ありきま、小水を交り瀉か
里。いつまぐもるの鞭便の洩ぬうちも治らぬなり。挾熱下利と
も。病毒を作用力の驅出さんとききども。抵對不どの勢力を死
の故小純青なる臭氣の甚き溇便の下利なり。此證を微下劑を
行く。其力を扶べきの法なきども。素元よく病毒小勝と死る。下
盡く自然小愈をの故小。この瀉附を誤用たるま、小愈も

のあるを見く。さて瀉附小く効ありと耽誤て。下瀉き自利の
ること我知れ。また相抗力劣く倒るものあるを親せば。如彼
瀉附を多服たきども。下利止ぬも天命せひなりと云。參附の故
小。却て促死たるおとを覺べ。此弊富貴の家小尤多し。故小此證
富貴の家小あきむ。先難治なり。如何にかきむ。この富貴の家
小。馱藥を懼て參附とだ小いへむ。死ぬる命も續やう小思。お
とを怡かゆ小。便候の醫人ち。下瀉死證とも思ども。確小診
得たることもなきべ。迎意もつむら小取給やう小。病家も
下劑小く誤たるの。醫を咎きども。瀉附小て害たるの。定業ぞと
寛懷る。今の紳貴豪商の人の此病小く死ぬるもの。十の八九ハ

皆是あり。況乾枯の韓漫かど成。上もなれむのと思ども。動バ贖
物多し。たゞ其の價の貴までのと小く。些用でも。させる効力
あるとの小あらば。且附子との大小選庭のもの小く。此論を
失慮するものなれを。分釐の増損を。醫士も。此物の効力い
小と知たる小あらば。己の罪を人漫小歸までの拙陋より。審
辨たるとも。なく。漫附といへど名をり小く。二三貼も投
バ方を轉痰の加減宿病の所置。互用將息留憾なく。意を措き
と。不起の天命なりと。預死後の自決をよくさせ。自己の短
と挿んとし。病の第二のもの小く。と。避責のをもるなり。そ
をらの小とも。志ばらく。閣をべく。傷寒も。他病とも異て。漫附を

用るも。硝黄の類を服する小も。其機宜切緊なる病小く。假令下
登は病證と的確小診得くも。之を下たび毎小。其大便水を傾る
の如きの。下劑懼へ切當せぬのと慮べし。はし薬を以て下た
るものも。自然小下利あるものも。其洩さびおと小。諸證漸小穩
小あり。な小となく。味爽の天色のやう小見ゆるものも。下利小
よ。里て。病の解をべれものなまども。こしをきとも異く。瀉ごと
に喫たるものも。喫ぬやう小あり。睡たるものも。睡ぬやう小
ありて。煩躁とく。ご。おとかく。苦悶とあるやう小見え。黄昏の
空のやう小見ゆるものも。お。是。快薬小よ。里て。元氣虚脱なまを。そ
を。顧慮は。恣小下劑を與て。止ざま。必死小いたる也。是。小。是

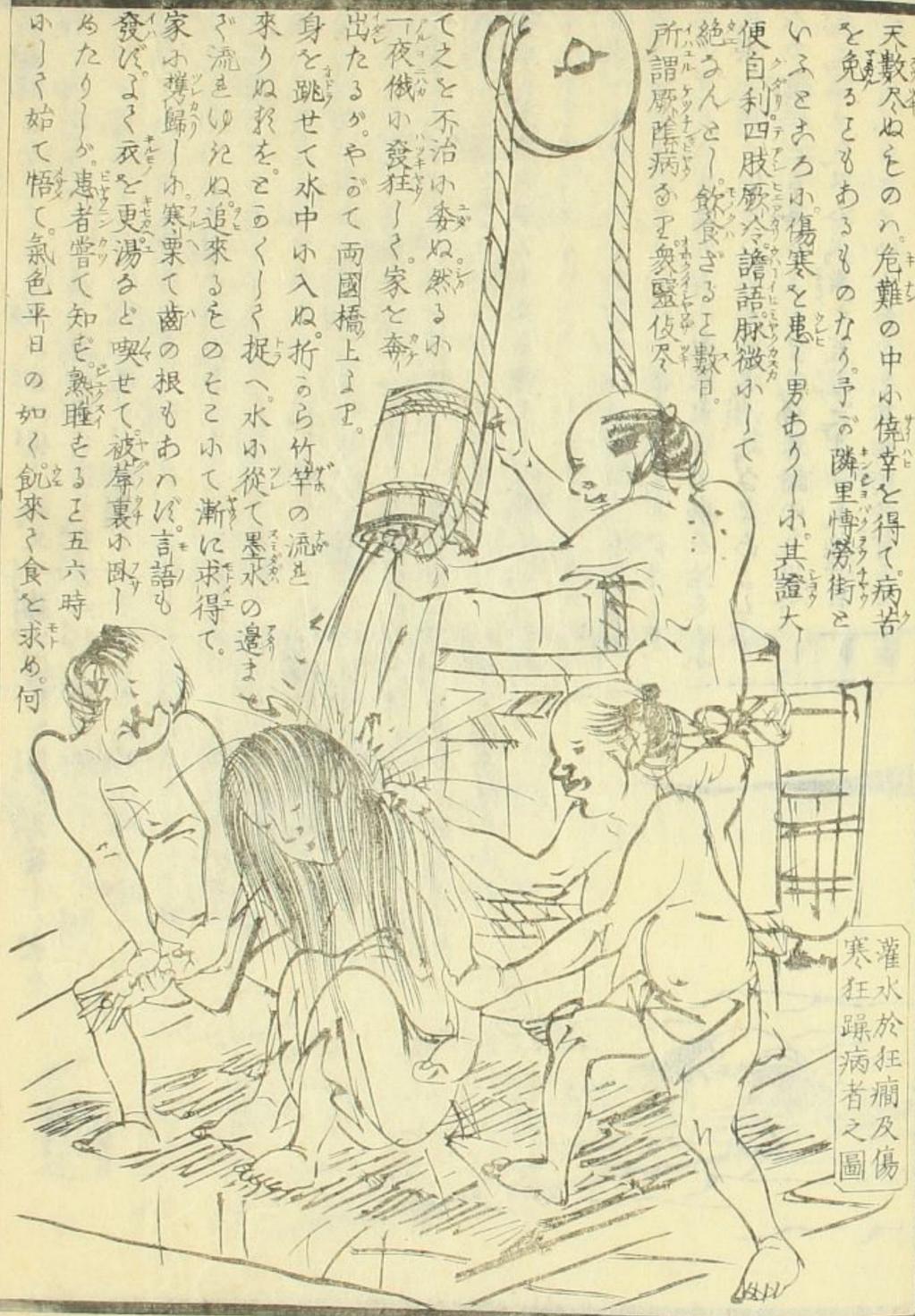
らその中小の治をべたとのあまを。藥論のたし。自己より病の
發したるものよまも。受染するものも危険症あり。初起より
藥石の及ぶるものもまゝあるまじき。十の八九は初發の治
と誤小あり。又傷寒も今の世小少。陰證も世間小有こと稀ある
とのなど、いふ説先胸間小措或は陽明胃實のもの。脈微
小四肢冷を。真陰證と誤認。まゝの喝蘭の多岐ある説小惑を起
織巧なる論小昧さ。的確ならぬ西蕃の藥を用ゐて。遂小
も巨害を招小もいたる。所謂藥せばして中壘を得小如ざるも
の。今の世小殊多見ることあるなり。又世壘の提擧をのなく。誠ざ
ることの怪べた。炎燠の時も。ま戸を閉被を層て風を避汗

洩氣鬱。其近旁小を堪ふたれやうなるも。其害殊甚たこと。昔
病心得の條小述おおとき。或領知ざるも。俗家小あまら然こ
こゝから。醫師のそを宜と執へ。天地化育の條理小昧故な
る。病家よく其旨を會得し。壘の教を待までもなく。傷寒病者
の蒸熱劇とのみども。最病室を日々掃除し。衣食を淨潔し。毎
昔清氣を迎暑月の戸牖を大小開。風の往復絶ざるやうし。こ
穢氣を除やうまをること尤切要なり。假令的當の藥を用より
とも。小の車小於く失あらば。輕ものも日數を經。重ものへ治を
る小となれ小も至べし。惣て熱病小。病室鬱滯氣を驅散。生
氣を迎る効も。尋常の藥を服小勝小となく。元陽開達の道を

得く自然小治をるものある。故小傷寒熱病も尤同病のを
 の、枕を同く一室小臥ことを戒狹隘ところ小衆庶裸居を避
 く。蜜柑香橙葡萄梨西瓜の類の果實を好むもの小必制おとな
 く分量を過さぬやう小おせ成與渴甚く水だ小喫おとを得べ
 死とを避びといふ輩小の冷水を喫おとを許く決く害ある
 もの小あらび或ち水を放喫後戰汗さう寒栗後小汗の出る
 おとあるも尤佳候る。水を欲おとの甚ゆる水を得く熱熾く
 乾涸たる腸胃を滋潤し解さんおと成我元氣の利るれば
 決く與て害あるものなげきども一人水を與んとききども
 舉家拒て鬻も首肯ぬものあるとれも冷水を用てとてく嗽

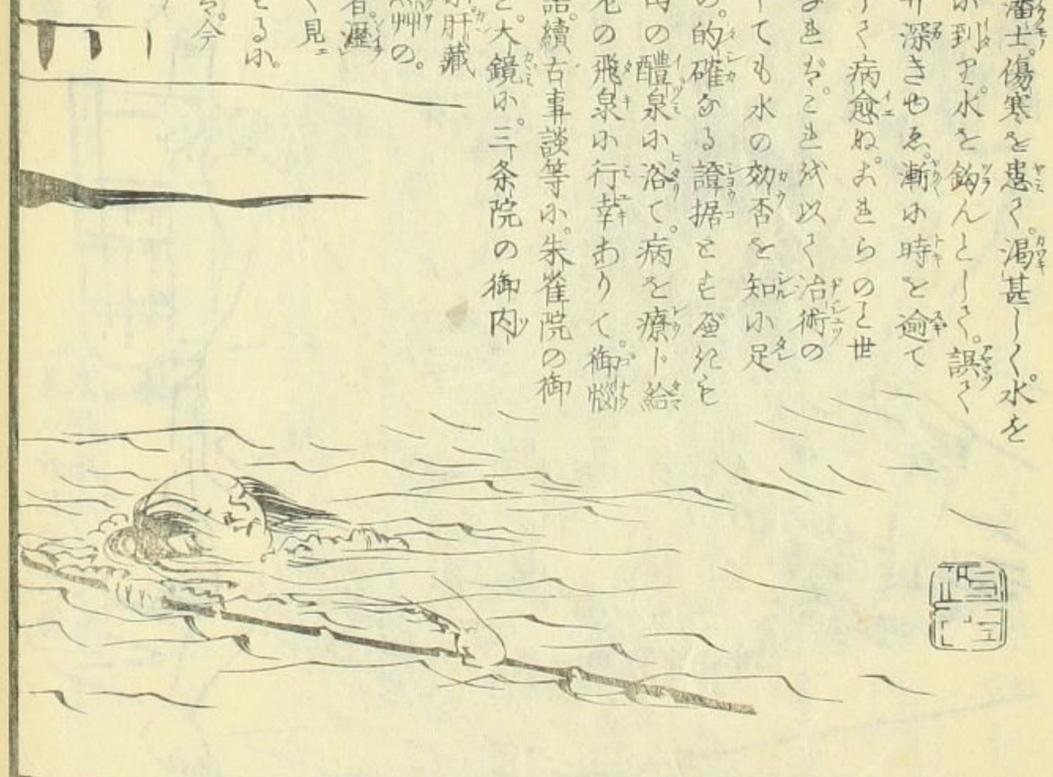
天數尽ぬもの危難の中小僥幸を得て病苦
 を免ることもあるものなり予の隣里博勞街と
 いふところ小傷寒を患へ男あり小其證大
 便自利四肢厥冷譫語脈微小して
 絶るんとし飲食さるる數日
 所謂厥陰病なり衆醫伎尽

て之と不治小奔ぬ然る小
 一夜俄小發狂し家と奔
 出たるや。やめて兩國橋上よ。
 身を跳せて水中小入ぬ折ら竹竿の流を
 來りぬれをさるく捉へ水小從て墨水の邊ま
 かり流せゆれぬ追來るものこ小漸に求得て
 家小携歸し小寒栗て齒の根もあはげ言語も
 發びよく衣と更湯と喫せて被褥裏小臥し
 るたりし患者嘗て知む熟睡をる三五六時
 小了り始て悟り氣色平日の如く飢來り食を求め何

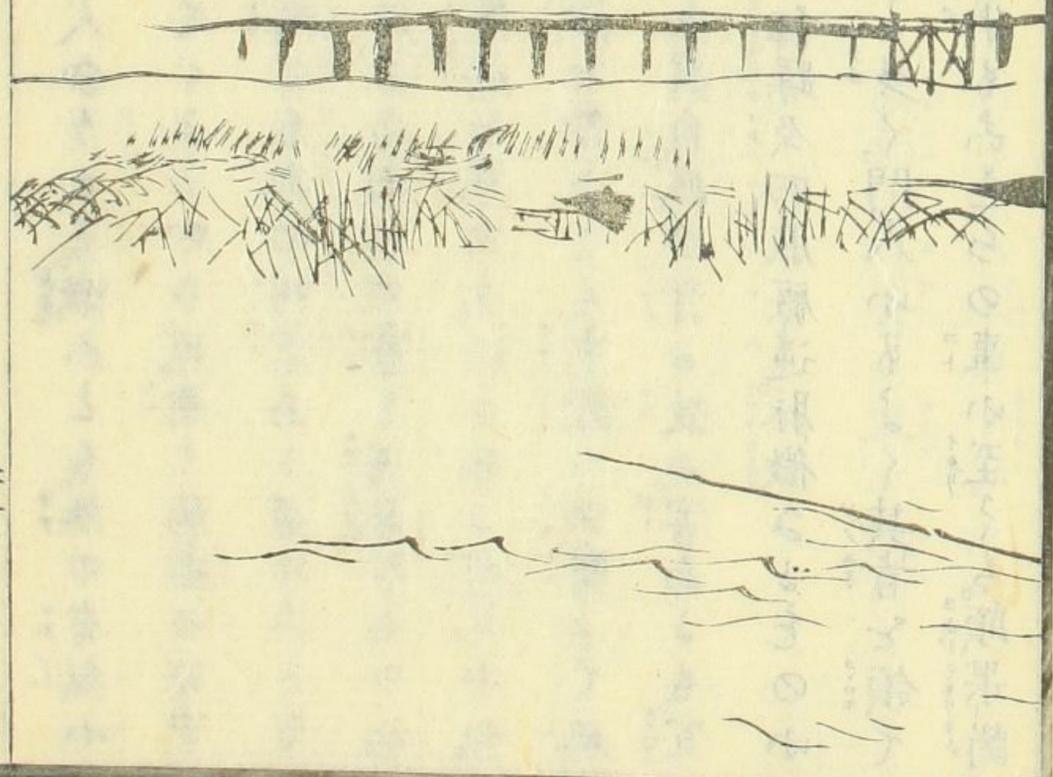


灌水於狂癩及傷
 寒狂躁病者之圖

の苦惱もなくなりて漸く素に復しぬ。又一藩士、傷寒を患く、渴甚しく水を
 乞ふ與び人定るをばち、竊小床を出る、井旁小到りて水を飲んとし、誤り
 井中小墮りし、その音小驚く、人衆集りて、井深き也、漸小時と愈て
 助出しぬ。おきもぎの日より快く、日ならば、病愈ぬ。おきらのこと世
 小多くあれども、諺小所謂、あやまちの功名さきか、こと成以て治術の
 例と為べし、小あらねど、世人ことさらを見聞して、水の効否を知らず
 ることもなり、凡く水を以て病を療むること、的確なる證據をも登れし
 の、日本紀のむら、持統天皇の近汗國都賀山の醴泉小浴て、病を療し、終
 ひ一と及、續日本紀、元正天皇の美濃國養老の飛泉小行幸ありて、御體
 平愈まし、はせし例と成始とせし、榮花物語、續古事談等小、朱雀院の御
 周身小瘡を發し給ひし、水を灌奉りしと、大鏡小、三条院の御
 醫眼小、御頭小水と沃させ給しと、續鈴日記小、肝藏
 の病小も水と沃るべきよりのこと、まこと徒然州の
 癰疽と水小く洗との、俱舍論頌疏小、誰有智者、濯
 水、澆癰有少樂生とのふ小、據たること、其他多く見
 た、素問五常政大論小、氣寒氣涼の病を治むる小
 寒涼と以て沃しといひ、行水清之とあること、今
 人の臆度とも異なることなり、傷寒論小も、以水
 灌之、はさる、以冷水、濯之、若灌之、まこと、熱汗自
 泄、欲得水自灌といふこと、其治術の背ること



説たることども、灌水適當の症小も、必驗あ
 ること、おきと晋の頃、はでも専らに行しと知
 れたり、其他漢の太倉公も、以寒水拊其
 頭の術、魏の華佗も、寒熱汗病小、水と灌
 て治むる例も、おき見とも思ふこと、後
 世金の張子和よく此術を得
 て、傷寒痘瘡小と乃危症小も、
 水と灌く偉効を見たるよ、記
 した、は、西蕃小も、近世小至て、
 水療の法と大小稱譽て、専ら小用
 るよ、彼邦の醫書に載たり、又
 清の王大海が、海島逸誌小、吧國の
 風土小、記して、感冒風熱病、及産婦瘧
 兒を、河水小浴せ、治むるよ、と記て、
 奇事のやう小思ひし、全く目熟ぬこと
 小駭る小く、我邦の太古、河水小浴く病と
 治むる風俗を、潜確居類書小、記したる小、よく
 似たること、おき、其詳あること、既濟
 微言、水療俗辨等の書小、載たは、
 此編小も、齋さるる也。



むるふより水を與タテマよトき病人ありとも嗽カクあとも熱ネツの有無アルナシ小
拘カハラび爲サセくより。剔齒ヤウシ織シを用ヨウてくるからば。惣スベく病者の口中
も潔キヨメたるふどお可ヨクシけきむ。諸病シヨビヤクともおの用意ヨウイあるをばたとな
す。傷寒レハツカン熱病ネツノヒヤク小水コスイをら與アタフべたをのあれ試カツ嘗カサて渴カサ甚シたをの小
湯茶ユチヤを禁キントく喫クムしめざし醫師イシヤを見たり。いゝある所見コトロエ小や
怪オモシキあとなり。渴カサキあるをの、水飲スイモノを禁キントくも重證オモキシヨクハ必變カシヤヘントて死
に至イタラしむるおと眼前ガンゼンあり。おを其自然シゼン小背ソムクの故ユエ小害ガイあるも宜ヨク
どと慮ヨロクべし。予ヨち傷寒レハツカンの大熱ネツノヒヤク狂躁キヤウソウ及四肢シツシヨク厥逆キヤクカク脉微マクミなるをの小
も水スイを灌スグぐ偉効ヒキを奏ソウたるおと多く。門人カドシ小もよく其旨ソノミチを領ネウて
施行オコナフものありといへども。治術レウゲツもおをらの車クルマ小至イタリくも。頗果ヨホト斷ミキリヨク

く毀譽クイヨを屑クソもせぬ特操トクソウある小あら秘ヒむ。手次テジ下ゲのたれおとな
す。醫療イリョウ小灌水コクワンスイの法ホウあるおとも。我邦ワガクニの往古ムカシハ專モトメ小施行シヤシす。里シ
證シヨウ揚コの。水療スイリョウ俗辯ソクベン小記コキたるを看ミべし。さてこの世間セカイ小いふ陰證インシヨウ
小あらず。真陰マイン證シヨウハ。とつむら稟賦リョウヒ脆弱クワク者モノ小多オホク。其熱ネツもまよ劇シヤクの
らび。下劑ゲザイを用ヨウべし證シヨウも火ヒをのなす。をさらの病者ビヤクシヤ小峻劑ソウザイを過
服マしむとバ。一應オウち効カウあるやう小見え。俄頃ニハカ小變ヘンを招マネことあ
す。かゝる患者ビヤクシヤハ。水スイまでとも欲ヨクぬをのふて。飲クム吐クハも寒冷サムク物モノを禁キン
べたおとなす。真陰マイン證シヨウ小く。熱少ネツオホク寒多サムオホク下利ゲリ止ヤメたれをのせ。沈シム
睡リテ覺サメのたき者モノハ。灸キウし奇驗キケンあるをのあり。假令タトヘおの熱少ネツオホク證シヨウを
里シとも。病室ビヤクシヤの鬱蒸ウツショウを戒イサムるおと小於オチち。差別サベツあるおとなく。衣被ヤビ

も。とりく更ヒカモ可ヨシとも。其他ホカ一切病室サイチマの熱ユン鬧サツを制イシメ旁カタハラに無用ムヨウの人
を省ハナキ患者ビヤクニの心意ココロを静息オホクサカしむるやう小コさる大オホと何ナニも同傷寒ドウシヤン小
限カクび惣スベての病室ビヤクシムも日輝ヒヤタリの甚ツヨク死シと大オホろと。壁カベ多オホクき屋トコロを好コトマび燈トシの
きらく一ヒト死シと。火爐ヒバシの多オホク尤トモトモ制イシメるよ。患者ビヤクニを静坐スクリサ小コ堪コエらる
於オケそのも。を更ヒカモく後ノチより扶起タスキオコシるなりとも。蓐上フトシノヘ小安坐スワラしたる
大オホと尤トモトモ一ヒト。飲食インシキも力所チカラ及キタケち臥シたるは、小與コトモる大オホとを欲コトマび。如
此ヤウの大オホとも。皆ミナ今世イマノヨの貴賤キセンとも小左計コサケことどもあまべ。いゝ小
も教諭コウロク。革カクさせたく慮オモウ大オホとの第一ダイイチあり。最俗人トリアケレロウちとせららのお
と小意コイを加モチクるものも少スチく。病者ビヤクニあまべと。く小周章クロウシヤ失措シバク。鑿シヤク
説イハシの多岐イロクある小惑マドヒ。ト籤シケン小昧コマク。繩ナハを見て蛇ヘビのと疑ウタガひ。眼メ小翳クモあ

望ノゾクく空ソラ小コ両月リヤウゲツ出イデたりと。怪アヤシむやうなる妄見シヤクケンより。鑿シヤク士シの辭コトも當
否ヒトも辨ワカび。我意ガイ小任マカセ。終ツヒ小病者ビヤクニの害ガイを招マダシ大オホとある小至イキこと。
蠢愚シロカ小コとま。嘆息ナゲクべ死シとどもあり。の、る弊ウシエを除クハんとからむ。
恒ツチ小意コイの和平タヒラカあるやう小欲マカヒ死生シシヤウの天命テンメイ小由ヨルことを明アキラカ知シ
て。病ヤマあると死シ。初ハジメより擇エヒクたる鑿シヤク匠シヤウ小始末シヤウマツを委マカす。絶タツて惑マドヒことま
れ小志シあ。ト。妄マダシ小藥ヤクを議ヒカキし鑿シヤクを轉マシトあ。とま。るうち小各ヒトヒト自シ
の治術シヤク小異見イカヒあ望ノゾク。假令タトヘハ彫俎シヤウ綺者キシヤを薦マシたる後ノチ骸體カクタイ小一ヒト
擡タシと。また縛シバクるやうある大オホと小會アヒて。大オホある損ソレをま。ることあ。ま
ども。旁者ソバで替カれ。の辨知ワカルとの小コあ。ら。れ。バ。いつもの肆辯シヤク鑿シヤク人ヒト
小調音イヒマツサと。さ。あ。ら。ぬ。大オホと小愆期ヒカシヨカサとの落後コハハリ小臍ホツを噬カムの悔コトシヤクあ。る

小至ち。平常の昏迷小原ぢあり。然ハあまども。生も死もを空天
數の定あるまとなまむ。たこへ誤治小よまら。死ぬることあり
ども。其期小至ち。掉悔登れま。小ちあらば。如此者ハ却て蘊
結との小。不然こと小人を怨。己の殃小逢べ。時運あるを悟
べ。子を失ひく。酒色小沈面親小別て。放縱小あり。生涯
を誤やうなるま。小もいたるなり。た。壹是自然の道理小率
て脩とれち。禍を違るま。あるべく。た。ひ不慮の災難ありと
も。悔る念も發べ。らば。此事ハ病のうへのみ。小ちあらば。一切
の事實小涉て。志をた。まとなりけ。さ。傷寒の類愈て
後。た。氣力の素小復。が。た。た。もの。強小藥を服小も及。び。飲

食起臥の節養をま。新鮮の魚肉羹汁かど。代間少づ、喫しめ。
菜蔬の類を擇用。食後ち強て身體を運動。元氣の自然小循
環とるを。はち。よ。復本の劑といふ。な。た。ま。な。ま。周身浮
氣あるもの。ち。の。浮氣ひきて。平常に復ぬ。あひ。ご。ち。身體小
いま。ち。耗損たるところ。あ。ま。と。知。く。よ。病愈ても。旬數過さ。れ
ハ。其常小ハ復ぬ。との。な。ま。む。ち。の。あ。ひ。ご。ち。房事。飲酒。竭。及。費
心。讀書。慕。象。棋。伎。藝。の。類。一切。勞。勤。ま。と。無。用。か。ま。微。の。妨。あ。ま
ハ。再熱を發するな。ま。む。尤。嚴。制。べ。又。疫。邪。傳。染。世。間。一。般。小。患
と。れ。小。ち。を。御。小。ち。醋。の中へ。通。赤。小。燒。た。る。石。瓦。な。と。を。投。く。
其。鼻。氣。小。て。屋。裡。を。を。り。く。薰。べ。烈。酒。小。く。ま。る。も。よ。或。ち。菴

鍋子やうの器へ醋を盛漫火小く氣の絶ぬやう小煮もよし。瀝
青松脂の類を炷もよし。松節檜節など炭をりく燃たるもよし。
其他鳥銃の火藥放花炮の類消石などを薰もよし。疫疾ある家
小到小も醋を口鼻へ貼る訊る。醋及酒などを炭喫たるもよし。
必く虚中あると死と。眠を忍たる時小も病者の旁へ近べら
び其臭氣を嗅みとたると知べ。速紙條を鼻小さく噴嚏をも
ぞし。おとらのおとち常小記得人小授る益あるおとなり。此編
説とあろちをべく俗家小示んまぐのおとにしく。醫家の爲小
言小ち非と思へし。

痢病のおゝろに成説

世間小痢疾小く死ぬるもの。十の八九を療治の機變失故なり。
先痢疾の初候も腹痛く下利あり。其時も惡寒もあつ熱もある
と無もあり。此時小速令汗べ。そのまゝ治とのあり。然どもと色
ち自己より發したる痢病小く受染たるものも汗のみ小てら
治らぬものなとせも。惡寒あらははづ汗をとせたる可故小
數洞瀉の後も。あつ腹裏爽快。肛門の邊小何とかく後重やう
小思ふならむ。痢病の初起るまゝと慮て速汗をべし。一二次も遍
身小微汗とせ。多ち解び假令痢病小くあらばとせ。惡寒あらむ
まづ汗くよし。然ども初起るまゝ後重頗小く。數廁へ登との
ある故小。今汗間とせとのあり。其時小く熱湯小鹽を投て浴

盆ハシ小盛コシヨ也ナリ。小コ下カ身シとク温ヌルべし。暖アツカまるハあハいハごハち。後シモ重ヘ止メ。
そのナリ。尤モトモト堪ヘがハさハれハ不レどノ熱アツキ湯ユがハ佳ヨキなり。そレをハよりシ濕シをハよくク
拭ヌグく。腰コシよりハ足アシ心ココロまでハをハもハ褻キル衣モノ小ツミ纏ミく。被ヨギ褥クをハ厚アツクしてハ卧フさテ熱アツキ
稀カユ粥ユ小コくも。湯カケ蕎ソウ麥マク小コくも。汁シユ多オホク極キョク熱アツキ物モノをハ喫クてハいハとハ令アツ温マルべし。
發アセ汗コシ劑シも。麻マ黃ワウ桂ケイ枝シさハどノ配イ合カもハのハ藥クサかハれハ境トコロ小コ。青アヲ抽キユをハ多オホク煎セン
とク温アツク服フクがハ可ヨシ。痢リ病ビョウのハ初ハジメも。傷ケガ寒サムケのハ惡アツ寒サム發アツ熱ツのハやウ小コ。劇セツ然ゼンとハ
らハさハけハさハごハも。下タ利リあハるハをハみハく。傷ケガ食シキのハ疝セン瘕キとハ。依ヨ違チ小コしてハ遲シテ
回オウらハ小コ。瀉サ止チたりハとハ思オモまハるハなハく。裏ウラ急キツ後ゴ重ジュウとハ。肛コウ門モンへハ漸シヅ小コ逼セツ
迫キツてハ忍メぶハたハくハおハがハえハ。頰カハヤ小コ圍カへハ登ユケごハも。後ゴ洩シらハ通ツぜハば。白シロ色キのハ濃コキ
洩ハのハやウらハるハ物モノをハ洩シらハ膿カなり。葛クズをハ煮ユたハるハやウらハるハもハのハ腸ハ

中ナカをハ滋シ潤ジュンをハ津シユ液エツのハ凝カたハるハ小コ。膿カ小コらハあハらハびハ。おハさハもハ混コトク下カ
小コとハあり。交マりハ瀉サもハくハらハらハびハ。おハのハ膿カをハ出デす。腸ハのハ裡ウラ面カ小コ細コ
小コ瘡カがハ發デてハ。そレをハ潰ツてハ下カり。腸ハ癰ユウといハふハも。腸ハ中ナカ一ヒト處トコロ小コ結ケツ腫シュ
るハさハごハも。痢リ疾ビョウも。腸ハ裏ウラ周シユウ遍ヘン小コ發デるハ也ナリ。そレをハもハ肛コウ門モンよりハよク不レとハ深オホク
小コのハミミ發デるハ。膿カのハ多オホク寡オホクも。瘡カのハ稀マ稠シユウ小コ從ユことハなり。そレをハもハ周シユウ身シ
よク病ビョウ毒ドクをハ腸ハ中ナカへハ送オウ輸ユく。其ソノ毒ドクをハ膿カよク泄シ出デくハ故ユ。運ユ化カのハ機キ
轉テをハ妨サマ害ゲてハ。大オホク便ベンもハ下カ降カのハぬルらハるハ。甚オホクくハさハるハ。血チをハ交マりハ泄シるハ
也ナリ。故ユ。小コ尋ヒト常ジョウのハ下カ劑ザイ小コくも。快ホト利コキをハ得ユことハのハたハし。之ソノをハ下カも。其ソノ膿カ
血チをハ瀉サ下カとハ小コあハらハびハ。ぬルらハくハ侵ク蝕シツべキ毒ドク小コらハあハらハれハとハ通ツ利リ
滞ト也ナリ。腸ハ胃イをハ損ソ傷ケことハ多オホクのハ故ユ。小コ變ヘン證シヨウ發アツくハ死シぬル故ユなり。瀉サ下カ

瘧疾痢病の遅慢小るに。口中小兒の驚口瘡の
とれ白^シの密布^シ。鬱滯^シ甚く。毒の咽舌^シまぐも及たるなり。ま
禁口痢といふも。食氣の更^ニ進ぬものといふ。嘔氣もありて。強
て喫^ムむせむ。嘔逆^シく受納^スおとなく。却^リ苦惱^スなり。此を昔^ニ
里痢病中の危険證と^ス。治法もなやう小説^トとも。左^ニあら
び。今之を病者小檢^ス。其證小二の別あり。其一^ニ。毒劇小由^リの
なり。一^ニ。胸腹拘攣^シ甚く。穀食を受容^スおたれものなり。其毒劇^ト
のも。胃中へも瘡の發^ス。膿を醸^スさるる也。捷疾小峻瀉^スばさ
らぬ證小く。慢視^スうち小^シ。不治の證小るものなり。吐劑を用
て後小下^スおとあせども。先^ニ峻下劑小く瀉^ス下^スべし。藥を受容^ス
と

のた^ク吐出^ス。再與^ス。二三^ニ一も腹中へ内^リ。分量少^シと知^ル。
ま^もも用^ヒく速^ク下利あるやう小^シるおと^ナ。此時小^シ。巴豆の
丸藥類を用^フべし。兼氣湯ぐらゐの劑小くも不濟^ス事^ナ。一^ニ腸
胃^ノ急^ク小^シ。心^ノ下^ニ鞭滿^シ。食を受容^スおたれもの禁口痢小^シ。峻下
劑を與^フ。病勢ま^まく進^ムて。如何^ニも爲^ラおたれ小^シ至^ルものあり。
故^ニ小^シ此證小^シ。駈藥^ヲを行^フ。一^ニ其心^ノ下^ニ鞭滿^シを驗^ス小^シ。平淡^ノ
劑を用^フ。偉効^ヲを奏^スものあり。故^ニ小^シ惣^テ醫藥^ノのおと^ナ。一^ニ藥小説^ト
示^スおたれものるも。おと小^シ此疾^ノのそ小^シあら^ズ。又毒劇痢病
小^シ尋常^ノの藥劑小^シも快利^ナがたきといふ理^ハ。をへく下劑^ヲると
の効^ヲ。以^テ要^スいた^ス。藥の偏味^ノの性質^ハ。腸胃^ヲを刺蝟^テ。譬^ハ眠^ルた

るものを。搖動虚喝ユリオコシヨビオヒロカ。覺悟メヲサマサにおとく。下劑ゲザイの滲透シミツク小堪オホヘれた
くて。下利クダリを促モトメる。週身シウシンへ藥氣クサキを普達メダスも。腸裏チウリよりスヒトリ喻救ユキウて及ミる
る。故ユエ小一切サイの病ヤミ。藥クサリを服ノム。虚中スキナラと可ヨシとレ。然シカと。痢リビヤハ腸裏チウリの病ヤミ
小。下劑サイを用ユても。其氣味キミの透徹トウセツ。道ミチを塞フサキてあるユエ。故ユエ小。尋ナシ
常ナシの下劑ザイ小シ。効キレなレ理ハツる。小毒氣ドクキの猛烈ハゲレキものを。自若シラク
として時日ヒカズを歴フレあひど小。前條マヘ小も述ノベる。肥前瘡ヒゼンの緩慢ユルヤカる
る病極微ヤミノタチも。委置ステオクとレ。滋息ハビコリて周身シウシンの大患ナヤミとレ。此病コノヤミハとレ
よレも大急暴オホキダレク。其毒ソノドクの浸掠ハビコル。尤捷疾モウタイモスイヤカる。故ユエ小速大便快ハヤク
利リ。膿血ノウケツ泄盡シキて。後重レモハルキの止ヤムやう小。秘ヒからぬユエなり。かくのおと
く腸胃チウイを損ソコスるユエ。一時トキ遲慢オクレル。一時トキだけの損耗ソンモクありて。假令タトヘ平イユ

治ルとレ。復素ヒダナ小至イタリても。多オホクの日數カズを經ヘぎユエ。常ツネのやう小。なレる
かたユエ。故ユエ小此病コノヤミも。殊巧コトホカキと短拙フダヤハのおとるもの小。順治ジュンチても。とレ
る俗家シヨウカ小。辨知ワカチぬものおとる。世セ豎シヤハ。其泄シキものおとる。膿ノも何ナニとも
知ぬシラ輩多モノオホ。既スデ小支那カヲ小。痢リビヤの泄出シキもの。腸中チウチュウの滋液シキ小。瀉クダ
下スべレとレの小。あらレと説イヒ。豎士シヤあり。とレも無ナシこと小。あら
糸イトと原腹裏モトウラウチ小。鬱滯トギナガリたるとおとる。あレる。滋液シキを週身シウシンへ運輸ウツと
のおとる。ぬものおとる。此證コノシメと成ナレ。其液シキを瀉クダんと小。非アラナシども。下劑ザイ
小。よレも鬱滯トギナガリたるとおとる。速スミヤカ小。排達ヒラクとおとる。是コレまレ。輕下カククダ
くおとる。其中ソノナチ小。瀉下クダスとおとる。のおとる。あレとレも。決ケツくレ。禁下キンダと
定サダメべレとレの小。あらレ。和漢ワカンとレ昔ムカシ。痢病リビヤの因モトを確知シカトシる。

このかく西戎鑿の説とあつても適従つたは出と多し。はと此滋
液の泄症と膿血を下を證と成辨別す。此滋液を泄ふる下劑を
投ぬふと至理かるかやのやうふるあはと。一槩小執守る。權道
小疎へのの纖巧小擊縛らる、弊なり。彼支那一鑿の説も。一途
小下劑を禁むる小。是はた偏するのた小陷なり。淺學者ハ如此
説とを先胸中小介するのそ小く。其區別をも領び膿血を見
ても敢て瀉下ふとを懼滑液と養液を混り誤偏たる療治を
遂ふハ人残害なり。若腔裏小膿血を蓄聚たるものを下ふと
を禁む。假令ハ賊を家小育小異ど。尤蠢愚なる所爲と思べし。必
く鑿説の多途なる小惑て。的實の治術を爲んとする鑿の肘を

掣て臍を噬の悔あるふとあるは。はと痢病小附子劑の相應をも
れ證あり。附子劑と下劑と互用べれ證あはとも。とせらる治術
の上のふと小く。俗家小示るは出とならぬ。こ、小ち省ぬ。又
痢病も。尤灸小宜臍の両旁臍上下。および背脊腰膠何も灸し
よし。又腹部の痛甚れとあるを。阿是灸小をもよし。臍中小鹽
を填て灸をもよし。とせら。埤の底小錢大許の穴を穿て裏面
より紙を貼。穴小鹽を填底を火小温て後臍上小安艾肉小く灸
とるなり。まよ巴豆皮大。呉茱萸小。を細末して鹽小和て灸とる
もよし。此藥を味醋小く調和扁平小く。そのうへより灸とる
もよし。巴豆皮を去て。丁子。良薑麝香など成加たるもよし。此方

を用て効ある處とあり。は痢病小澁劑を用て止んとせむと
のあり。是大なる謬慮なり。膿血泄盡き。後重を止む故小度數
も減なり。故小固澁を痢も。百中の一二小も過ぎ稀なる證な
り。又痢後水脹をのあり。速小便を通じむ。水脹も治べし。故小
病後なりとも。鹽を遠て赤小豆を煮く喫しむ。間小單麥を
用べし。病後なりとも。漫木などのみ成與く補んふと思ふ。是ま
た失當なり。漫木も附子も與る症ありども。何小して。小便の
捷疾快利を欲小く。鹽を禁く。赤小豆を喫しむるがよし。又痢病
の傳染。多る病者の登廁小く。薰蒸毒氣を嗅肌膚小觸より起
故小く。病者の圍も別小く。或ハ虎子を用く。大

便とせし。毎小土中へ埋る。川へ捨たるがよし。そ色も爲るた
く。炭末を搗て鹿末。病者の登たる溷へ撒て。大便を填べし
よく蒸臭氣を銷むのあり。傷寒などの病者の大便小く。炭末を
壅せむ。よく汚臭の蒸發を壓くよし。此事件かどら常小記の
る病人ある家小く之を傳く。其の觸染を防むべし。

脚痺の心得とく

む。一の足痺の病も。支那嶺南といふ地より起て。漸小傳染て
諸方小流播たる。一種の毒小く。今人病ところのとのと。症
候のや、類似する處とあり。はで小く。病因小く大小違あるも
のあり。故如何とせむ。此病の患狀を古醫書小載ることありと

看也。其初必脚より起のこ小非く。病小懼との多る其両
脚緩弱頑痺不仁等の候を兼ふとある小從く。其時の俗呼く脚
氣或る脚弱の病といひしとの小く。今醫俗の脚氣と稱との
れ必脚より起るふおとれ小あらば其病の初起各異小く。
同一ならざるおとる。全人々の稟賦と病を受とあるの部分小
差あるおと、見えく。脚いまだ異ふとを覺さとも頭項臂膊
をぐ小苦むとあるもあま。諸處悉いまた知ざして心腹五
内己小困とあるもあまといひ。又々壯熱頭痛傷寒小類せ
るとのあり。下利起るおと痢病のおとれとのあり。まこと其初
熱熾なるおや、愈る小從て脚氣狀を見とのあり。光明を見

おとを欲せむ。精神悒悒語言錯亂譫語喜忌をふとのありとい
ふ類皆今視とあると迫小別あるとのなり。又其卒暴小く
恐べたおと成説とある小。と治るおと緩かむ。直小上
腹小入死を致ふと。病發よ一日を過ぎるとあり。尤急なるを
のら其死踵成回さむ。又々小腹痛頑麻。三五日を過ぎる病人の即
嘔吐を促たるもの。其死旦夕小ありおどの類。ぎの急劇。今の足
痺の緩慢數月小波く。偶衝心をるものあるも。百中の一二小も
過ぐ。扱も治術肯繁小中。速小治く。必定死ぬる小定たる
病小非と。其因合同らざるおと明白なり。且傷寒瘧痢小類
似たる證候のもの。今の脚痺小決くあるおとなく。脚の

平常小異おと成知むし。先心腹臂膊のこを惱むのも。はと聽
さるこあろぬり。はしと嶺南小起。漸小江北小及京畿小傳布
たる勢小由は是必一種の毒小し。この痘瘡を晋の世小南陽
の虜より轉我邦小へ高麗より得たると。麻疹の今も必異邦よ
り來おとく。古醫書小いふところの足痺も。其毒を人より人
小輸たるおと。はと知ぬべし。殊小嶺南といふも。南方廣列の地
に。後世所謂廣東府の海小近あた。此方の長崎のやう小異
邦の船の湊入とあろなり。脚氣もま。其初も。蠻船より轉染て。
支那小及せし。或も嶺南の地氣小由。別小一種の毒氣を醸
成たるもの。人小觸て病たり。歟。其起源も。的小知べららば

と雖決し。今有とあろの足痺の。百千人中小偶一二人の病を
のあま。且安小人小傳化おと少く。季候小つと。發歇し。或も
去年患たる。今茲も病も。翼年再發類の。緩慢なる證小あら
ざる。今病とあろの足痺も。悉皆自己内因の病小し。必外
襲邪毒小あらば。多も癩毒。肥前瘡。癰病。痔疾などの。己も全愈し
まとおもひて。敢て如茲事件小へ顧慮ざる輩。其内鬱の毒よ
り變り。此病とあるもあり。はと臙瘡。陰癬。癰癩。かよび痛痺。
鶴膝痺。背痛。腰痛。あごより來もあり。又も恒小宿癖。留飲。など小
苦む。腹内や。緩小なり。たうと思まも。倏忽小脚痺とる
るもあり。或も父母の遺毒より來もあま。病の所由。預續舉げ

たしといへども、惣て古鑿書フルキイシヨ小載ノスルとあるとも、病状ヤミヤクや、類ルく其因ソノモト異なるハツおと。猶青天ナホアラソラ小白日テンヒを視ミルがおと死シものるニ。然シカレを近チカ世ゴロの方伎者イシヤダナ流タラる。偶古鑿書ムカシノイシヨ小兩脚リョウカク緩弱クワンジュク麻痺マヒ浮腫ウクムかどの證候ビョウケウの古昔イニシヘの足痺カクケといひ、傳ハヤリ染病リヤマヒの。今の病ヤミ小類似ニヨリたるニ。汝ミ視ミて、其他ホカの患状イヤクザイを述ノベするニ。大小ササキ違チガあるニ。を首コウカをニ妄意マダリ小古ムカシの足痺カクケと同一オホものとなリ。たゞ古ムカシの藥方ヤクハクのニ。汝ミ用モトく。今の病者ビョウジンを治チせんニと。るニ。故ユエ小齟齬ソコおと多オホれル。尤モトモ踈漏ソウロなるニ。おと小く。所謂イハユル一旨ヒトリシヨの百オホク首イシラを引譬喻ヒクマトヘのおとく。末學ノノチの輩モノたゞ、世ヨの說セウを耳食ミミハサミするニ。はぐニ。古鑿典イシヨをだニ。小眼メ小觸フレ比カキヌキ鈔錄シヨモツの方書シヨモツより。脚痺カクケの劑スリといふニ。もの、方銘ハクメイを記オキたるニ。おとり小く。麻痺マヒ緩弱クワンジュク等の有無アルナシも

拘カウ比ヒ脚カク小患ヤマヒありとシ。小いへニ。即スグ小さニ。脚氣カクケと稱イヒ自己オノレも的テキ實カらぬ。刀圭ナヅサキ小被傷アヒマシて。不治ツヂの證シヨウとなるニ。もの。はオホ多オホし。其オホ之コレを古鑿ムカシノイシヨ籍モトム小求ヤウラるニ。徒コソ。此病コソヤミの邊地イナカ小少オホクく。江戸オホタアルなど小多オホク有アルを見ミて。此地コノチを卑濕ヒツカキ嶺南レイナン小均ヒトシといふニ。もの。おとカもか、繁華ハンクワの大都會トクワイ小寒暑ナムチアツチノホド冲和ホドを得ユ。疹アセキ少オホクれ。地チ小嶺南レイナンなどのやうカなるニ。瘡カサ邪シヤの人ヒト小中ナカやをシ。おとカ。あるニ。おとカも思オモひニ。補ホふニ。もの。おとカもつツ。僻言ヒョクゴンあるニ。べし。予オノが今イマの足痺カクケを内因ナイインの病ヤミなりといふニ。おとカも。惣スベて保養ヒヤウヤク過度カダ酒食シウシキを恣シ小オホクするニ。もの。又マタ身體カラダを運動ウツクおと少オホク歩ホ行コウの希マレなるニ。もの。小多オホク。左サなるニ。おとカも必鬱毒カヒスあるニ。輩モノ小のカ。歴見レキケンとシ。おとカも。決ケツして濕地シツチ小坐卧オキマシ。冷氣レイキ小中ナカたるニ。おとカも。所得シヨク小非アヒカ

とバあ。若足常小濕地を履冷水を渉るごとくより得とのさ
里といえ。耕夫港丁。淘井。泥匠の輩小のみあ。富貴の家小
も少ある。其徒小も却て患ふと希小。專紳貴豪商及
管家。坐匠の類の身體の労働少きもの。又も性質懶惰なるもの。
稟賦怯弱なるもの。惣て腸胃の轉化頑鈍との小の多を見せむ。
いづれ小も外襲の邪小あらざるおと。灼然との小あらばや。近
來殊小此疾を患との。益多る。驕奢遊惰の風世を靡し。
卑賤と雖。酒食小耽。藜藿小甘むとの少る。ゆるくの
ららば。癩毒肥前瘡の毒ら。漸小人より人小輪て蔓延受胎の初
より已小病を得て。癩行者多小由ばかり。且百病傳化さるもの

あれも。首卷小も述ぶおとく。今の足痺も亦真小人の病小觸た
里と慮る。このも。歴見とあるあり。又此症を比歳患たるもの
の變小。急非小あり。緩非小なり。はと見さるおとあ
り。痼證小轉たるをも亦施治さるおとあり。其變化預織悉
べのらば。ささと如茲必有べれ分の事小。異む小足ぬおとな
り然と古の醫典小足痺を論むるとあるもの。や、類似と
る患狀ある小至。予の説を疑とのある。登けと。我れ小も確
乎不稜之説あるおとなり。凡て病因所由の事件小至。い
小辯と。俗家の會得。たたおとあ。此編小も詳説。と
此病も飲食の禁戒尤切要なるもの。小も身軀水脹の有無小

拘カウ塩シホを遠タチ粳ケル米チを禁イミて。單シ小ア赤グ小キ豆ハ大キ麥ヒとを啖ウせ。一モ小チ淡キ薄アの食品シホモノを撰エラ腸胃ハラの消化コナレを資タスべた物モノ代モ用モ。強ツて身カラ體ダ代リ運動ウツカ。温アタ煖ナリを欲モト灸メキの効カウあるとほぐを預カチ記テ得コたれと勿モ論ロンなり。且ナ其ソノ衝心シヨウシンをべたとのを御フんカ小チ。従キ來ライ用ライるとある中カ復ラの藥劑ヤクザイのミぐる。其ソノ劇ゲキとの戒治ゲイヂをるると能スむ。方イ今マ患ウるとあるハ別ベ小チはと小オ應オウむる方術レカクあり。其ソノ猛勢マウセイを挫ク小チ非ヒハ凌レたれとあるをも審辨シム小チ。胸ム憑カ嘔逆オウニク等の證シヨウあるとの小尋常ヨウジョウの藥クを與ユむ。却サウて妨害サマクガとなると亦マ察サ係ケならぬとあり。故ユ小チ抵當シカレをイ醫師イシ小チも會アぬ僻境ヘンキョウなど小チ。此コノ病ヤミ小チ罹カらば。藥クを用ユむとあり。第二ダイの沙汰サタ小チ。上ウ小チ述シたる飲シ食シの禁ドク忌ゲを持モするたが。

先マち宜ヨロむと怒イてのた。實地シヤクモ小チ涉サて確カ實シ小チ試シ験ケンたるたと小チ非ヒを書籍シヨク小説シヤクのたとも。一レ々レ信シ據コなりた。古イと以シ今イマを律リツ。今イマを以シ古コと看ミべらざる病ヤミも多オホ。且ナ漢地カンチと我邦コノサマとも人物ガツ風土フツの異タガもあり。常ツチの飲タベ食モノも同オホららば。又カ彼邦カノクニ人の書籍シヨク小チ著シたるたオホと小チ。妄誕カウ多オホの常ツチ小チ。動ユバ陰陽インヤウ五行ゴウ生剋シヤク配當ハイトウの空理ソラヨリを譚シの癖ケなり。よく擇エで取ト小チあらカ。却サウて書籍シヨクの爲タメ小チ誤アらる。と多オホのるオホ。況マや數萬里スを隔ヘたる。烏喃ウナンの鑿イ説シヤクなどのと信シ。拙シツに翻譯ハンヤク者の過讀ヨクたる鑿イ典シヤクども小チ据ヨて。其ソノ藥劑ヤクザイを妄投カウち。可ア畏クたどもあり。故ユ小チ俗家シヨクもよく覺コ。必カナく彼黨カノトウの爲タメ小チ惑マる。たとるのた。

痛痺の病多し手足關節小發して痛甚く腫むのや腫ざるもの
と。痛一處小著者と遍身小及者との異あり。又足痺小類似たる
者もあり。治法もまた各別あり。惣て此證以漸成病を是とも
其中外邪小因る。條爾に發し。焮腫痛不可忍者あり。然らば其初起
小發汗て速小治む。是れ焮過る後へ下劑小て愈者と。催温藥小
く効成得む。この差別切緊也。凡そ此病も内攻を是へ死む。其
死びし。手足屈伸自在ならん。生涯廢人と爲る。皆誤治小由を
の多し。故小尤顧慮を是とされども。用藥の法は。俗家の知べき
とならぬ。詳説は。其攝養は。專足痺小類せる病と記て可
病家須知卷五

